男女貞潔之理想　會長　島田三郎

公娼廢止之主張　副會長　安部磯雄

6－51

廓清

明治四十四年八月一日創刊
大正七年十一月一日第三種郵便物認可
（大正十年二月十日印刷）
（大正十年二月十日發行）
（毎月一回十日發行）

第十一卷第二號

□國家の危機……足羽清美
□社會悪化の素因…廓清會理事　高島米峰
□飲酒の齎す害毒…醫學博士　片山國嘉
□飲酒の弊と花柳病　醫學博士　松浦有志太郎
□實驗上より觀た酒害…醫學博士　羽太鋭治
□酒禍宣傳の急務…日本國民禁酒同盟理事　青木庄藏
□古典に現はれたる男女道德……一條忠衛
□自由平等とは何か……水津千雲
□勞働運動と生活問題　辯護士　布施辰治
□姉の茶ばなし……小林隆之助
□娼妓病院手記……前某病院看護婦　田口和子
□片言隻語……福井壽郎
□編輯之後……圭英生

東京　廓清會本部　發行

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

國家の危機

平穩なるが如くして忽然鳴動震撼し、動搖するが如く觀えて然かも微動だにせず、到底窺測し能はざるものは政界の推移である。原内閣成立以來年を閲すること既に一年有半、議會を重ぬること玆に三回、その間秕政百出して内閣に對する國民の信望は全く地に墜ち、屢々政變を説くものありと雖も猶且つ餘命を持續し來れる所以のものは抑も何に由るか。之れ實に制度の缺陷に因る僥倖にして、原内閣は不自然に膨脹して議會に多數を占むる政友會に依つて擁立せられ、僅かにその命脈を維持して居るに過ぎないのである。卽ち之の現象は國民の多數に參政權なき結果であつて、納税制限選擧の齎せる弊害の尤も顯著なるものである。輙ち原内閣は、最早國民に交渉なき内閣にして、實に一政黨たる政友會の機關内閣たるに過ぎないのである。然し國家は獨り政友會の占有に屬すべきものにあらずして全國民の國家である。然らば既に國民に何等の輿望なき内閣は、一日もその存立は認めらるべきではない。卽ち原内閣は猶ほ執拗に政權に戀着することなく、速かに掛冠して以て罪を天下に謝するが順序ではあるまいか。然るに未だ恬然として此の事なきは國家をして益々危機に導くものである。現内閣失政の結果は、今や無辜の國民は悉く塗炭に沸かしめられて居るのである。食糧に將た住宅に、その窮乏を訴ふること甚だ急にして、最近にも東西の辨別も付かない幼兒を懷いて、親子五人相抱擁して諏訪湖底の藻屑となつた可憐なる人々もあつた。抑も現内閣は前寺内内閣が米騷動の不祥事を惹き起した後を享けて成立した内閣ではないか、然らば食糧問題は現内閣の當然解決すべき主要問題であつた筈である。然るにその事なきのみか國民をして益々窮地に陷れたことは甚だ不都合である。飜つて思想界の現狀を觀るに、霰雨將に到らんとして風廊に滿つるの概ありて、若し一歩を誤またば千仭の谿谷は行程を遮つて居るかの觀がある。是れが諸外國であつたなら何うであらう、既に或は Revolution は行はれたかも知れない。然し我國は他に類例を見ざる國體であつて、开麼不祥事は起るべき筈もなく、實に天壤と倶に窮り無いのであるけれども、澎湃として起る思想問題はその歸趨する處を知らず、苟くも國を憂ふる者は今や我が國家は劍ヶ峰に置かれたるを想はなければならぬ。此の機に現内閣は尨大なる豫算を提げて、尙ほも國民を苛斂誅求せんとして居るのである。何たる暴戾極まる事であらうか。斯くの如くして一朝不祥事を見ることもあらば、實に其罪の全部は原首相を初め之れを擁立せる政友會の負ふべきものであつて、國民は斷じて之れを赦すべきではない。起てよ民衆、目醒めよ國民、我等の奮起すべき秋は來たのである。（清美）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

社會惡化の素因

廓清會理事　高島米峰

△酒は必需品ではない

殺人權も場合に依れば活人權ともなる、病を治す爲めの藥の爲めに命を奪はれることもある。種々なる點に於て最も害毒の多い酒も、或場合には藥になることも無いではない。然し、人間の常用飲料としてそれが果して益を與へるか害を爲すかと謂ふ樣な事は、殆んど問題にならない程明白な事柄であつて、常用飲料としての酒が單に人間に有害であるといふばかりでなく、全然無用のものであるといふことも亦自明の事柄である。

人間の生活の上に何うしても無くてならない物、之れを物質的方面に需めれば衣食住の三つであるが、食物を求むる事は、無論我等の本能の働きに基くものであつて、食物無くしては一日も生命を維持することは能きないけれど、酒の如き特殊なる飲料に至つては、其の慾求は後天性の習慣に基くところのものであつて。人間本來必然的の慾求に基くものではないのである。

「オギャー」と生れて直に慾求するものは卽ち母乳である。長じて穀物、物菜、肉類などを攝取するのは卽ち生命の發達存續に要する必然的要素を爲すものであるが、酒の如きに至つては、幼少の時分に特別に多少の苦痛を忍んで學んで初めて得るところの第二義的飲料であつて、水の如き何うしても缺く事の能きない第一義的飲料とは遙かに其の性質を異にしたものである。若し或る機會に、多少の苦痛を忍んで、之れを口にするといふことが敎えられなければ、人は終生自ら酒を要求するといふやうな心持にはなり得ないものであると信ずる。

△生命財産を亡す毒素

勿論、今日の如く過去の永い間飲酒の惡風が持續せられて來た以上、酒を好むといふ一種の惡遺傳を産み付けられて居る者もないとは言へないが、其等は旣に病的に成つて居るのであつて、そう云ふことを考える事に依つても、我等は酒の害毒の恐ろしさに戰き慄かざるを得ないのである。

酒そのものが何ういふ成分を持つて居て、其の成分が人體の組織に何ういふ影響を及ぼすかと謂ふ樣な本質的研究は夫れは專門學者の研究範圍に屬する事であつて、吾々門外漢が輕々に論斷する事を差し控えなければならないことであるけ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

れども、吾々が日常目睹する所の現象から歸納して見ても飲酒の害の多大なることは、單に個人の衞生、生理上及び道德上、經濟上のみに止まらず、其の子孫の優劣即ち第二國民の精神的及肉體的優劣に影響する所も甚だ大きく、更に延ひては國家經濟の上から考へても、實に重大なる惡影響を及ぼして居ると云ふ事を斷言するに憚らないのである。

唯だ酒の害は極めて漸進的であつて、急進的でない爲めに世人は往々之れを輕々に看過し樣とするのである。けれども桀・紂のやうな暴君の逆政に對しては、國民が直ちにその暴逆に氣が付くけれども、溫和なる專政々治は、恰も軒を廻ぐる雨垂れが何時とはなしに石に穴を鑿つが如く徐々と國民を虐げて、國民が『ハッ』と氣が付く時分には、最早や充分に去勢されて居るといふのと同じ樣に、酒の害もまた極めて徐々に人體に浸潤して、飲酒家が其の害を自覺するに至つた時は既に病膏盲に入つて之れを救ふの手段のない時である。自らの精神と肉體とを酒の犧牲に供したばかりでなく、其の子孫に惡遺傳を殘して、二代三代と酒害の爲めに精神と肉體を滅さなければならないといふ事になるのである。

△人倫を紊る導火線

今事新らしく個人の衞生、生理上の害毒、道德上の弊害、經濟の破綻などに就いて多くの説明を加ふるまでもなく、其等は何人と雖も之れを承認し、之れを諒解して居るべき筈である。亦、種屬の保存の上に與へる惡影響も、國民經濟の上に及ぼす惡影響も、多く世人の諒解して居る所であらうと信ずるから、事々しく茲に論議する手數を削くが、唯だ一つ世の尤も醜惡なる職業の一つである賣淫行爲と、酒との關係を考へて見度いと思ふ。

勿論、酒の力を借る事なくして、女を弄ぶと云ふ樣な者もないではあるまい、然し藝者に戯れ、娼妓を弄ぶ事の前には、必ず飲酒といふことが必要缺くべからざる要件として爲し遂げらるゝことを否定する事は能きない。

酒は人間をして、尤も多く其の動物性を發揮せしめる所の魔力を持つた物であつて、醉ふこと益々甚敷して人間を去る事愈々遠くなるものであるが爲めに、酒の爲めに獸的蠻行を敢てせしめられるといふことが甚だ多いのである。

罪惡の影に女ありといふが、其の影には必ず酒があると云ふ事を考へなければならぬ。

若し人悉く酒を用ゐず、常に正氣で生活して居るといふことであれば、幾何か世の道德的罪惡が減殺され、個人及社會の道德が何れ程淨化（[illegible]）されるであらう。今日國民の花柳病に就いて頻に研究もし、考慮も費して居るのであるが私娼公娼が花柳病の傳播に最も多くの力を持つて居るといふ事は、言ふまでもないことであるが、斯くの如き私娼公娼に接する男子は必ず酒の力に煽動され、獸的衝動の耐え得ざるところからして、内心頗ぶる良心の苛責に惱みながら、之れを自制するところの克己力を失つて遂ひに道德上の罪惡を犯し、其の上に惡疾を享けて自ら苦むばかりでなく、之れを子孫にまで遺傳するといふ樣な悲慘な結果を買ふ事になるのである。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

勿論性慾の衝動が、全然酒の爲めばかりとは言へないけれど、酒によつて促されることが甚だ多いといふ事は、爭ふ事の能きない事實である。

△禽獸と何の選ぶ處ぞ

今や人心惟れ危く道心惟れ微なる時、社會は切めて酒を禁ずると云ふ位の仕事を成し遂げ得ないならば、人と禽獸との差別が、道德上何れ程の間隔を持ち得るかと云ふ事が疑問とせられ、その德性の缺けたる人間に依つて爲される事業が、正義の上から、人道の上から何れほどの値のあるものであるかといふ事が疑問とせられ、結極人は罪惡の固りであり、社會は罪惡の塵埃捨場であるといふやうなことになつて、道德的に全く光明を認めることの能きない暗黑世界が展開せらるゝに至るではあるまいか。

否、現に日本の社會が、道德上から嚴正に批判せられる場合、確かに暗黑が次第々々に濃厚になりつゝあるが如き感じがするではないか。之れを要するに、飮酒は畢竟習慣の力である、人間に必然的に缺くべからざるものであるといふものではない。無くて濟むべきものでも、夫れが切めて無害であるならば、之れを在らしめても妨げないけれども、全然存る事を要しないものであつて、而かも夫れが多大の害毒を人間の世界に流すものであるとしたなら、更らに習慣の力を以て逆に飮酒の惡習慣を征服しなければならない。

飮むといふ事を習慣付けられた人間は、亦それを止めると云ふ習慣をも作り得ないといふ事はない筈である。既に多年の惡習慣を馴致した人々にあつては、一朝にして之れを斷絕すると云ふ事が、精神上肉體上に反つて一時の變徵を來すといふことも無いとは言へまい、夫れ等の人々は徐々に酒量を節して、遂ひに禁酒の實蹟を擧げるのも亦妨げない。

個人が自覺して禁酒を斷行するといふことの外に、國家及び社會が種々なる方法を講じて禁酒の運動を有効ならしめるといふことが亦大いに必要である。夫等の方法に就いては、或は酒を賣る時間を制限する事も可し、或は酒を飮む場所を制限する事も可し、或は酒を飮む年齡を制限するも善し、或は酒を飮むことを職業に依つて制限することも宜し、(假へば敎育者として立つべき人の資格として禁酒の一箇條を加へるが如き)其の他色々なる方法を設ける事が能きやうと思ふのであるが、兎も角個人的に、社會的に、國家的に禁酒の方法を講じて、尤も理想的なる禁酒國が東洋の天地に生れ出づるといふことが、極めて望ましい事であり愉快な事であると考へる。

◎〔附言〕——飮酒の惡習慣は正月の屠蘇、三月の白酒などに依つて馴致せられる事が多いのであるが、尠くとも日本の家庭に於ては、酒を屠蘇に用ゐるといふやうなことは止めて、その代りに葡萄液を使ふとか、三月の白酒を甘酒に替へると云ふ樣な風にすれば、少年少女に飮酒の惡習慣をつけさせない最も手近な方法である。是れ丈けは恁うしても各家庭に斷行して貰ひ度い。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

——酒害五項——

（一）酒害の本源は飲酒の習慣にあり。

（二）飲酒の習慣は強酒多飲の場合に限らず、薄酒連用の場合にも亦生ずるものなり。

（三）飲酒習慣は飲者其人自ら造る第二の天性にして酒害は其の結果なり。

（四）故に飲害を完全に豫防するには、飲酒の習慣を未然に防止するを以て最善の根本方法と認む。

（五）是れ余が兒童及青年に絶對無始禁酒を勸告し、壯者及老者には少くとも相對的禁酒を勸告する所以なり。

飲酒の齎す害毒

醫學博士　片山國嘉

（一）

此處に五ケ條の要目を掲げて御説明することに致しました。第一が酒害の本源は飲酒の習慣にあり、第二は飲酒の習慣は必ずしも大飲の場合に限らず各種の原因を爲す即ち濃い酒を餘計飲むのは勿論いけない、けれども薄い麥酒の様なものでもいけない、薄い酒でも續けて飲めば其習慣が付くと言ふのである。第三は飲酒の習慣は飲者其人の自ら作る天性で、飲酒の習慣は生れ付きでない、第二の天性である、酒の害は其結果である其習慣の延る所が結果となると言ふのである。第四の酒の害を完全に豫防するには習慣を未然に防止すると云ふのが最善の方法であると私は認める。故に第五に私の稱へることは兒童及青年には未だ飲酒を始めない前に絶對無始禁酒を行へと言ふのである、其と同時に壯者老者には尠くとも相對禁酒を勸告する壯年以上の人には既に飲酒の習慣が大多數の人に於て生じて居る、第二の天性が發生して居る。飲酒の習慣が生じて居る人には、其習慣が善いか惡いか宜く酒の利害を諒解して斷然禁酒すると云ふことは最も結構であつて其を希望致します。併し乍ら飲酒の習慣が深く付いて居る人は、仲々之を斷行することが六ツケしいと思ふ、思ひ立つても之を斷行することは困難である、二度や三度は決心をしても、矢張後戻すると言ふのが飲酒家の常であります。そふ云う人に於ては絶對禁酒と言ふことが出來ないと言ふのであれば尠くとも無害程度に飲む位に止めて貰ひたい之を相對禁酒といふのであります。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

こう云ふと私の禁酒論は他の熱心な禁酒論者の絶對禁酒とは違ひます所から手緩いと謂ふ人もあるのですが、社會のことは理想通りには行くものでない。殊に飲酒の習慣が深く着いて居る人は絶對禁酒等は實際言ふべくして行はれるものてない。

〔二〕

併し乍ら自己の健康上自己の能率上子孫の爲害にならぬ程度に飲むと謂ふことなれば私はそれを認めるのてある。之れが卽ち社會の禁酒と私の禁酒と相異のある所てある此に於て壯者と老者には相對禁酒を勸告する、兒童靑年は未來の帝國を作る國民であるから之れは何卒絶對に無始禁酒をし、決して酒を欲せぬと言ふ具體的習慣を付ける、靑年兒童に限らず、壯者老者と雖も共に絶對禁酒を希望する、先づ大體に就いて言へば兒童靑年には習慣が付かない、そう言ふ癖を付けぬ樣に無始禁酒を爲し決して欲しがらぬ樣にする、私は之を日本全國の靑年兒童に向つて勸告し樣と言ふのてあります併し之丈ては何が故か理由が解りませんから尙ほ之の理由を申上る積りてあります。

〔三〕

御承知の通りてアルコール卽ち酒精の含有して居る飲料は總て酒と申すのてあります人に依つては只だ日本酒のみが酒て、葡萄酒麥酒などは酒の中に入れぬ人もありますが、私は葡萄酒も麥酒も酒の中に入れて居るが、之は日本計りて御座います、佛蘭西てはワインと言ふと葡萄酒の意味て酒の中に入れて居らぬ。佛蘭西てはブランデーであるとかウヰスキーてあるとか言ふものが酒て、葡萄酒は酒の仲間へは入れない酒は飲てはいけないが葡萄酒は差支ない、之は有害てないと言ふので飲て居る佛蘭西歸りの人はよくこふ謂ふて居る。又獨逸人をして謂はしむれば麥酒は差支ない、葡萄酒其他は酒てあるからいけない、麥酒は蛋白質があるから卽ち榮養素てあつて、アルコールは少ないから之は榮養飲料同樣の飲料てある、之は酒てないと申して居るのてあります。

私は麥酒、葡萄酒も其他日本酒も差別なく先づアルコール卽ち酒精分の含有する飲料は皆酒と稱するのてある、百分の一丈含んて居つても酒と謂ふかと謂はれると、六ケ敷い問題になるけれ共、麥酒は一般に現在行はれて居る飲料中てはアルコール量が尠ない。中にも尤も尠ないのはミュンヘン麥酒てある之なれば百分の三位外アルコール量はない。百分の三位ては酒の中には入れないてよからうと思ふ併し百分二、五乃至二は酒てないかと言はれると、之は問題てあるけれ共、先づ今日普通アルコール飲料として廣く行はれ居る所の酒精飲料に對しては、私は皆酒と言ふ、勿論麥酒も酒の中に入れるのてあります。

要するに濃い薄いの差別なく、もとより濃い酒にはアルコールが餘計にあるから飲てはいけぬが、薄いアルコールてあるからと云ふて續けて飲めば、卽ち之れ第二の天性に近ける結局强度のものを大飲すると同樣の結果になる、て濃いものは勿論いかぬが、薄いものは滋養てあるとか何とか言ふこと

は今晩申上げる必要はないと思ふ。

〔四〕

私の御話ししようと思ふのは薄い酒だと言ふて、麥酒を飲むとか、麥酒は蛋白質があつて滋養物だとか言ふ樣なわけの下に麥酒を呑む人は、段々麥酒に限らず、他の酒はいかぬが葡萄酒はよろしい、此の葡萄酒を平常飲めば却つて藥になると言ひ、或は日本酒でも極少量宛毎日飲めば却つて藥になると言ふて飲む樣に、自然に酒害の根源となるべき飲酒の習慣を付けるのである。薄い酒だからと言ふて居る内は思はず危險を伴ふと言ふことを記憶せねばならぬ酒と言ふものは元來人類にとつて果して一般の人が謂ふ樣に榮養物である、蛋白質を含んで居るからと言ふて、榮養物を攝る爲に麥酒を飲むなれば、之は餘程經濟を知らぬ人である。

麥酒から蛋白質を攝ると言ふなれば、麥酒より遥かに安くてアルコールの害のない非常に經濟に出來ることがある、麥酒一本の蛋白質は一串の團子に及ばぬ。夫して團子一串位の滋養物を必要として飲むなれば、之は甚だ不利益である、若し薄いからと言ふて飲むなれば、それ位の不注意のことはない、又薄い酒であるから大丈夫だと言ひ乍ら飲むのは、最もいけない、後に酒で精神病になつたと言ふ詳しい御話しは致す積りであるが、其御話に這入る前に一寸申上たいのは、先づ今日獨逸人の思想が非常に變つて來て居ることである。

〔五〕

私は獨逸に明治四十年に行きましたが、もう其の時分には大分思想は變つて居りましたことて、私が酒を飲まぬと言ふことを申しますと、到る所で譽めてくれました、實際貴殿の謂はれる通りである、尤もよい習慣であると謂れました。二十年前に私が參つた時分、私が麥酒を飲まぬと申しますと何故に飲まぬと言ひます「アルコールはよくない」と申すと之はアルコールではない、酒ではない、蛋白質である榮養物であると謂ふて意氣地のないと云はんばかりに笑らはれたのでありますが、其後二十年經過しますと、獨逸に於ても研究の結果、私より一層範圍を廣めまして、麥酒でも葡萄酒でも飲ではいけないと言ふ觀念が深くなつて來まして、到る所之の禁酒、ビールでも飲まぬと謂ふことが始められたのであります、此の位思想が變つて來ましてそれ迄では彼等はビールを盛に飲んだのであります。殊にミュンヘンは麥酒の産地であるものですから、彼等は麥酒は口當りがよい、アルコール量は尠ない、榮養物である蛋白質が多いこれは酒ではないと言ふて盛んに飲んで居るのであります、ミュンヘンは都てありますが程遠からぬサクセンと云ふ所の如きは凡ゆる階級の人が飲んで居ります。私がワルツーに醫學研究の爲病理學教室で解剖する所に臨みましたことがありますが、五百十人の中に百二十五人は此の麥酒の爲めに病害に冒されて居つた之が即ち最も薄い酒である、滋養物であると謂ふて飲んで居つたミュンヘンの人に計りでなく多數獨逸の人に依つて表明されたのであります。斯樣言ふ工合で御座いまするから、此の麥酒の爲めに種々な病氣となつて健康を害される、殊に普

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

通病氣に止らず、癲狂院に入れられる精神上の病人が多い、然らば精神病院に居る患者に就いて此の麥酒の爲めに精神病になつたものがどの位あつたかと言ふと、百人に付き二十三人位で此の精神病となつて精神病院に這入つた人々の他に此麥酒の爲めに健康を害して居る人々は何倍あるか知れない、日本では幸に此の病氣は御座いませぬそして一般精神病者のみを合して例年バヾリヤの國民はミユンヘンの人民に比べて、非常に此の患者が尠く四分の一に過ぎない。之れ畢竟ずるに、最も薄いアルコール分の尠ない最もよいビールであると言ふて誇つて居つたミユンヘンの住民は、此の疾患に罹つて居るのであります。

此の樣の事は、薄い酒であるから宜敷いと言ふて飲んで居つたのが全くの誤解であつて、薄い酒を多量に飲んだ害である、此處に至つて酒は本來の性質を變ずると言ふことは各人注意せねばなりませぬことが明瞭になる。上戸は酒は百藥の長であるとか言ふて盛に飲んで居りますが、澤山飲んだ結果は神經痛であるとか、精神病になつて苦しむ人が數多いのであります。

〔六〕

勿論毒藥も時に藥に混用して效果のあります如く、酒も古來藥に混入して藥として用ひた例も多くありますけれども之れを百藥の長であると申しますのは、過賞であります。殊に素人が醫者の處方を持たずして濫りに之れを藥として飲用すが如きに至つては如何に薄いアルコール分の尠い葡萄酒の樣なものでも其の結果遂いに習慣をつけることゝなり、終ひに大酒を飲むと言ふ樣な具合になる。

酒は習慣を守り適度に飲むと言ふことは六ヶ敷いことで、有れば在る程餘計に飲む、飲むとよい氣持ちになる、又酒を飲むとよい仕事をすると言ふ樣なことを聞いて居りますが、それは何時となしに體を傷めて居る、之れを解剖して見ると既に種々の酒害の痕が現はれて居る、之れが酒害の始まりである。但し未だ苦痛を感ぜぬても病氣として醫學の上には現はれて來ては、此の麥酒の樣な薄い酒の害を受けても、智慧比べをしても、力較べをしても健全なる人には劣ると言ふことになる、結局酒と言ふものは、習慣が付く、此の習慣が付くと、此の害を爲す基を作つたのである。であるから若し此の習慣の付いた人はそれ以上、自身により多くの害を與へぬ程度に飲む、と謂ふて中々に此の適度に飲むといふことが、口では申されるが守つて行き難い、本人は之れ位なれば大丈夫だといふて飲んで居るが、それが大丈夫でない。

そう云ふ人が既に酒害に冒されて居る、吾々の友人の中にも六十以上になつても酒の害が現はれないと言ふて飲んで居る人もありますが、害が現はれない、影響がないと言ふて居つても其時は既に影響の現はれる時で、害の現はれるまでは何ともない、自分の體の觀かたを誤つて居る斯ふ云ふ人が多いのであります。けれ共、自分に身體の具合の惡いといふことを感じない時に醫師に診察して貰ふても之れは未だ病氣と云ふ程の害に冒されて居らないのであります。若し現はれて來た

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

としたなれば、それは餘程強い程度のものであるのです、自分は酒を飲む習慣の付いた人は其の量を増さないと言ふことが安全であると思ふ。併し之れは絶對に禁酒の出來ない人に限られたことゝて、此の習慣のない人及絶對に禁酒の出來る人は絶對に禁酒するが宜敷いが、習慣の爲めに何うしても飲まねばならぬと言ふ人は尠くとも無害程度に飲む。然し此の酒の害を防ぐには、先づ習慣を付けぬのが一番安全である。

（七）

中には斯う云ふ事を言ふ人がある「元來吾々人間が酒を飲むのは生れ付きである。酒の好きなのは人間の天性である」と斯う云ふことを言ふ人がある。實に自分勝手の話て、動物は元來酒を好む、其の證據には鳥や獸物でも果實を集めて木の洞であるとか、岩の洞等に澤山蓄えて置くと自然に酒になる。それを飲む。酒は恁う云ふ所から始まつて出來たものてあると云ふ、人間が酒を飲まぬといふことは天性に背いて居ると云ふ樣なことを言ふ、即ち麥酒は酒精が尠ない、蛋白質がある榮養食物であると云ふて飲んで居るのと同じことゝて、之れは大いに考へねばならぬことてある。

中には亦酒は元來果物から出來たのてあるから即ち果物の糖分が變つて酒精となつたのてあるから害はない、此の天性好きな酒に何の害があるかといふ樣なことを言ふ人もある然らば酒が天性好きなものてあるといふことは、始めから酒を好きな人があれば之れは天性であると云ひ得るかも知れないが然し今日まて私が多數の大酒家に對し、貴殿は何時から御好きになつたかそれとも最初から御好きてあつたかと尋ねますと、最初から好きてあつたと言ふ人は一人もない。否や始めは皆樣が甘いといふから口に入れて見た所が餘まり甘いものでもなかつたが其内に度が重つて今日ては無くてはならなくなつたとか、亦甘い酒だから飲んて見よと言はれて口に入れて見ると辛くつて何んとも申されぬ味て顏を顰めて人から怒られた事もあるが、それが次第々々に我慢して居ると段々に辛いのが美味くなつて、徐々習慣が付いて今日の樣な大酒家になつたと言つて後悔して居ると言ふ樣に、始めから甘まかつた好きてあつたといふ人は、今日まて一人もないのであります、そういふ具合てありますから、始めから酒は好きなのてはない。世の中の酒飲みは皆始めは好きてなかつたが境遇や我國の古來の習慣の爲めに、思はず知らず此の酒を飲む習慣が付いたのてある。之れ即ち飲酒の習慣は飲者自ら作つたものてあると謂ふのは此のことてあります。

（八）

然らば此の人間本來の天性てない酒を飲まない樣にするにはどうしたら宜敷いかといふに、天性てないことが解つたなれば、一切始めから飲まなければ宜敷い。即ち此の習慣を付けなければ宜敷い乃ち酒害を豫防するには、此の習慣の付いて居る人の多い今日、直ちに禁酒を斷行するよりも遠い百年の後に我が國民が此の酒害から免れるといふ方法を採らねばならぬ。未來の國民を救濟するといふことが最も必要てあると思ふ。此の點に就いては、先に申上げた通り、老年青年は

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

既に此の天性でない第二の天性が付いて居るのであるから、急に禁酒は斷行することは出來ないから、之れは無害程度に飲む、少年は未だ此の習慣が付かぬのであるから、之れは絶對無始禁酒を斷行する。之れを斷行するが爲めには兒童の爲めに兩親及此の第二の天性の付いた兄弟中の年長者は大いに注意せねばならぬ、卽ち御祝の酒であるとか、屠蘇であるとか言ふて、未だ習慣が付いて居らぬ少年小兒に此の習慣を付けさせぬ樣に注意する。君し之れを怠りました時自分の產んだ可愛い兒童等まで拭うことの出來ぬ飲酒の習慣を付け、果ては酒害に襲はるゝといふ慘めな目に逢ふのでありますから、必ず無始禁酒を勵行されんことを希望致します。

之れは決心さへすれば今直ちに日本全國が禁酒國とならないまでも、五十年六十年の後には最う今日の樣な、第二の天性の付いた人が尠なくなつて、完全なる禁酒國が出來上る。之れが一番安全であつて、確實な方法であると信ずるのであります。夫れ故少年は勿論、青年に於ても大いに注意を拂はねばならない。それは今日の中學校の生徒は既に酒を飲み始めて居る、旅行をする時等には先生の眼を掠めて飲んで居る者が多い樣であります。斯ふ云ふ事は嚴重に取締つて全然中止せしめねばなりませぬ。

〔九〕

既に多少の習慣の付いたものでも、多少は苦痛であらうが何うしても之れ等の青年には中止させて行つたならば五十年六十年後には立派な禁酒國になれるのであるから大いに奮鬪して貰はねばならぬ。斯くして生徒には絶對無始禁酒をさせねばならぬと謂ふのは、又一面何故であるかといふに、此等青年兒童の身體は未だ發育中であつて、此の發育中にある人には酒精が殊に害になる。而して此の酒害は發育が盛んである時代に現はれる、然らば此の青年といふのは何年位を指して言ふかと申しますれば、私は二十五歲までは青年の中に入れる。元來人間の體は二十三歲乃至二十五歲位で略ぼ身體の發育が完成する。日本の法律では青年は二十歲とされて居る。先づ二十歲になれば大分發達して居るが、之れでは充分とは言はれぬ。歐洲戰爭では十八歲、十九歲位の者を六分使つた勿論之れは程度もので、二十歲を越えねばならぬ十九歲では不可ぬといふことは無い。私は十九歲は十八歲より發達して居るといふ見地から、二十五歲になれば先づ完成すると謂ふのでありますが、青年の發育は精神的發育が先きて、知識の發育は後になる。先づ大學に入學するといふのは、此の發育の完成した二十六七歲で、卒業して社會に出て活動するといふのは三十五歲位になる。卽ち私は二十五歲を以て青年と壯者との境とするので、二十五歲を境とするけれども、勢力といふものは尙ほ遲れて居るものと考へる。それといふのは青年は知識の割合に無謀のことをする。此の理否を判斷して裁判するところの精がない。精神的發育と知識方面の發育と勢力方面の發育が相應して發達するものは極めて尠ない。卽ち二十歲前後の青年と雖も酒を飲むと心地が良くなる。隨つて血氣に逸つて遂いには種々の禍を仕出かす、或は感情に馳り、激憤し又亂暴の振舞もすると言ふ樣に、其の結果は他

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

人に危害を加へるとか又は不知不識の間に墮落すると云ふ様な具合になつて、知識と勢力とに裁斷力の乏しい爲めに其の方途を誤らしめると言ふことになる。勿論未青年者も同様て學生及び青年に對しては絶對に無始禁酒を要求する所以てあるが、或る者は高等學校迄は知識教育といひ學業の成績と言ひ實に立派なものてあつて、大學に入學してからも實に破竹の勢て進んて來たが、何時の間にか此の酒の友人が出來て其の結果、校紀を紊し遂ひに放校の處分に逢ふ、併かも今一年位の處て此の慘事に會ふて一生を誤まると言ふ様な例は少なくない。私は東京帝國大學の評議員の一人として各學科の斯うした出來事を聽かぬ譯にはゆかなかつたのであります。そして其都度同情に堪えないが、然しこれが校紀であつて見れば已むを得ないて、是等學生の間に起つて來る放校處分、停學處分といふやうなことの原因は、多く酒を飲んだ結果てあるものが多い、そして此の處分を受けた後に自分も後悔しては居りますが、これ自ら求めた禍て氣の毒てはありますが何とも致方かない。大學に於てすら此の様な誤りがあるのてすから、以下の學生に之の酒の爲めに身を誤り易いのは勿論て、實に酒といふものは恐ろしいものてあるといふことを感ぜねばならぬ。斯様に高等の學府の人にも種々の誤りがあるが、古から人間三十歳を越えて始めて考へが落ち着く、三十歳て漸く社會に獨立して行けると申しますが、實に名言てあると思ふ。三十歳になると殆んど完全に發達して無謀のこともしなくなる。四十歳になると愈々完全する。四十歳にして惑はず實に名言てある。四十歳になると本統に落ち着いた考へが出る。本統に精神が完全すると言ふ様な具合で、二十五歳から三十歳乃至三十五歳四十歳になつて始めて精神が完全するのでありますから、二十五歳以下と雖も又二十五歳以上三十未滿の人と雖も絶對無始禁酒或は無害程度の飲酒をすると言ふことを勸告する次第であります。第二の天性の着いた人は止むを得ぬ場合に無害程度に飲み、青年壯者中の此の習慣のついた人は奮闘に奮闘を重ねて禁酒を斷行する。又青年兒童中の第二の天性の無い者には絶對に無始禁酒を勵行せしめて、五十年六十年の後には完全なる禁酒國として列强と共に位置を保つて行ける様勸告し、御願ひする次第である。

佛教典の禁酒戒（一）

（飲酒の利害は既に二千年前から説かれて居る。即ち佛教典を觀るに左の如くである。（一記者））

○涅槃經　酒は不善諸惡の根本あり、若し能くこれを除斷せば則ち衆の罪を遠ざく。

○長阿含經　其れ酒を飲む者は六種の失あり。一には財を失ふ。二には病を生ず。三には闘ひ爭ふ。四には惡名流布す。五には恚怒暴かに生ず。六には智慧日に損す。

○沙彌尼戒經　酒を飲むことを得ず酒を嘗むことを得ず酒を嘗むることを得ず。

○梵網經—重禁
酤酒戒
　—四十八輕戒
飲酒戒

○三歸五戒　（僧俗共通）
殺、盗、淫、妄、—性戒（根本的罪惡）
飲酒　—遮戒（附隨して誘引となる）

＝（十六頁へつゞく）＝

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

飲酒の弊と花柳病

醫學博士　松浦有志太郎

＝年齢の増加に伴ふて……感染者の數を増加して居る＝

花柳病が各階級を通じて夥だしく蔓延して居ることは、誠に慨嘆に堪へない次第である。先年私は全國壯丁に花柳病がどの位あらうかと調べて見ると、殆ど五十%に近い花柳病患者のあるのを見出したのであつた。それから其の年齢の關係を調査して見ると、先づ二十歳位から二十五歳、三十歳三十五歳と言ふ様に順次其増加率が増して行くのであつた。數へ年二十一歳の壯丁に於て既に半數即ち五十パーセント弱の花柳病患者があるのであるから、之を三十歳或ひは三十五歳を基として統計を取つて見るなれば、殆ど大多數は花柳病に罹つて居ると言ひ得るのである。併し之は唯今詳しいことは御話申上げられませぬが花柳病と云へば世人周知のことではあるが、此の病氣は色町て人から人に直接に傳染する所の病氣て、之を一般に花柳病と言ふのである。て花柳病と云ふと一般の方からはそれが局部のみに起つて居る病氣かの様に思うて居るのであるが、實際は名稱は花柳病でも一旦其の病氣が體内に侵入る時はそれが身體の内の諸所方々に種々な病となつて全身隈なく蔓延して其病毒は凡ねく諸所方々に行き亘つて了ふのである。隨つて其病氣と言ふものは其發した所のみでなく名稱を變へ形を更へて發れるのであるがそれは一般には知られて居ないので、花柳病と言ふと多くの人は恐れ忌み嫌ひ、一面には非常に下劣な病氣の様に思ふのである。が此の花柳病と言ふものを先づ大體に分つて見ると、三種に分つことが出來るのである。

＝恐るべき花柳病の變化……執拗なる黴菌の作用＝

第一には軟性下疳第二は痳疾第三は梅毒この三つに分類して居るのであつて其内軟性下疳は之は極初歩のもので、隨つて局部に止まつて居るのであつて、未だ全身に蔓延する程の事もないので謂はゞ先づ最も影響の輕るいものである。所が第二の痳疾第三の梅毒になると、之は局部から血液にはいつて血液の循環に依つて諸所に蔓延し、體内の至る所に發はれて種々な病名に依つて取扱て居るのである、て先づ此の痳疾から起つて來る所の病名丈でも大體と四十種からに分類されて居る、其内の主なる病氣と謂へば痳毒性關節炎、痳毒性肺結核、痳毒性腎臟炎外内膜炎、或は膀胱加答兒とか言ふ様な形となつて蔓延して行くのである。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

第三の梅毒になると、まう之は身體の到る所如何なる部分に迄でも蔓延して居つて、一旦此の病に罹かつた人の病氣には、之を調査して見ると、此の徴象のないものはないのである、隨つて此の病名は數へきれぬのである。

或ものは顔面に來り、眼鼻口唇に、或時は皮膚に、筋肉に、心臓に、脊髄に又は血管に總て身體内の病氣となつて發れ、形を變へ病名を更へて起つて來るのである。て一般に其病原は解剖に附し血液であるとか筋肉であるとか又は脊髄であるとか言ふものを調べて見ますると、之が果して花柳病が原因して居ると言ふことが判明されるのである。て此處に人が死去された場合に心臓病で死んだとか、肺結核で死んだとか又脊髄または精神病で死んだとか言うて、皆夫々專門の醫者の手に依つて病名を附けられ、生前には花柳病が原因して居ると言ふことの判明せぬものも澤山あるのであるが、調べて見ると以前に花柳病に罹つて居つたといふことが死後に於て知られることが尠くないのである。が是等の梅毒性の病氣も生前に發見することの出來ない爲めに、單に心臓病であるとか、或は脳病、精神病、或は脊髄、腎臓といふやうな病名のもとに取り扱はれて居つて、直ちに梅毒の仲間には入れないので、隨つて是等の梅毒性の病氣を花柳病以外の專門醫に於て取扱つて居られるのは誤つて居る。非常に見當違ひと謂はねばならぬ。即ち吾々花柳病專門醫は、花柳病として直ちに判明し得る患者を取り扱つて居るのであるが、之れは誠に花柳病患者の一少部分に過ぎないので、より以上の花柳病患者が内科の醫者に診察を受けて、心臓病であるとか又は脳病であるとか神經病であるからと言つて、其等の專門の醫者にかゝるとか、又は痲疾梅毒等の遺傳性の病氣等も殆んど一見して判明せん爲めに、專門の花柳病醫に依つて取り扱はれるものは極く一少部分で、如何に多くの花柳病患者が普通總ての醫者に依つて取扱つて居られるかといふことは實に想像に餘まりあるのである。夫れ故病氣に罹つて之れを醫者に診察して貰ふと之れは大腸が惡い、之れは心臓が惡い、或は脊髄であるといふ様な醫者の診斷であつたが、死て了つた後で之れを調べると焉ぞ知らん、それ等は花柳病が原因であつたといふことは屢々ある、が一般世間では知られないのである。

斯く花柳病の恐るべきものであるといふことは素人は知らぬ、之れが皆酒を飲む機會の多い人がより多く其の禍に罹るといふ例は甚だ多いのである。

＝可惜學校時代の秀才も……
斯くの如くして深淵へ＝

玆に其の實例を一つ二つ擧げて見るならば、之れは尤も私の極く克く知つて居る或る紳士で、既に二十年も前の話であるが、その人は紳士として人格、學識等少しも恥しい人ではなかつたのである、殊に大學校在學中の如きは品行方正で勉強家であつた、て其の人が大學卒業後或る地方に地方官として奉職することになり、當分の間は品行方正で堅氣であつたが、地方の官吏の方などは、兎角宴會の席に列することが多いので、此の學生時代には品行方正で酒も飲まなかつた人が地方に奉職してからは、自然に酒を飲み慣ひ、そして一日その酒を多く飲んだ揚句高樓に遊んだ、所が此の品行方正の紳

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

士は不幸にも遂ひに花柳病に感染して、醫師の診斷の結果は麻疾であつた。其の病状は麻毒が尿道を破つて尿道周圍炎となつたといふ厄介な病氣て、外科の病院で切開せねばならぬことゝなり、止むを得ず切開をして貰つた處が、間も無く其の切解した痕が充分に治癒せぬ爲に、尿が尿道から出ずして其の切解した所々から泌々と出る樣になつて、遂ひにそれが膀胱加答兒になつて非常に苦悶した、て其の男は餘まり正直で氣の小ひさい爲めに精神に異常を來して自殺を遂げて仕舞つた。其れて精神病で死だといふことになつて居るのであるが其の原因は矢張り花柳病であつたのである。

＝數週間で失つた命……此の悲劇の原因も飲酒＝

尚ほも一ッ例を引くならば、之れも今から二十年も以前の話てあるが、或紳士があつた、此の紳士は既に妻帶者てあつて、夫妻の中には數名の小兒までであつたのてあるが、自宅に在る時は無論堅氣て何等心配する樣なこともなかつたのてあるが、矢張り或る用向きて地方に旅行した時、旅行先て非常に歡待されて遂ひ其の先て高樓に遊んだといふことてある。そしてその要件も濟んだので自宅に歸つたところが、間もなく起つたところの病氣が麻疾て、其の麻疾が不幸にして二三週間經過する内に膝關節に廻つて痛み出して非常に腫れて來て、麻毒性關節炎といふことになつたのてある。所が此の關節の病氣はそれ丈けに止まらずして、遂ひに心臟に故障を起して所謂麻毒性心臟内膜炎と化り、二週日を出てずして不幸にも命を失つたのてある。

斯の樣に始め麻毒性關節炎を起して居たのが、漸次麻毒が血液の中に浸入して心臟内膜炎を起して居つたといふことは屢々あるのである。夫れ故其の場合に於て、最初受けた急性の病氣が輕い状態であつた爲めに氣付かなかつたなれば、後から起つた關節炎のない場合は、其の心臟内膜炎が何の爲めに起つたのであるか判明らぬのである。然し、此の關節炎のあつた爲めに急性に起つた心臟内膜炎も、之れは麻毒梅毒から來たのてはあるまいかと疑つた結果、麻毒から來たのてあつたといふことが判斷出來るのてある。

勿論、關節炎の中にも麻毒性のものもあり、梅毒性のものもあり、又心臟内膜炎にも麻毒性のものも、梅毒性のものもあつて、各々其の原因を明かにして居るのてあるが、之れは一般には知られないで、心臟病で死だとか、腦病又は精神病で死だと言うて葬られるのてある。て、恁う云ふ風に或る病人は腦溢血、或る者は半身不隨になつたといふ樣なものは、勿論吾々醫師仲間ては、普通茶飯事の如く之れを見られるのてある。

＝花柳病も飲酒が導火線……花柳病專門醫をして餓えしめたい＝

此等の病氣に罹つた人が後年死だ場合、非常に堅い人てあつたが、診斷の結果は上述の如くてあつて、何分地方官即ち地方の行政官等には酒を飲む機會が多い所から、遂ひ友人に誘はれて遊里に遊ぶといふ動機を作つて來るので、是等の病人も其の酒を飲むことがなかつたなれば、此の花柳病に罹るべき機會を與へなかつたのてある。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

要するに此の恐るべき花柳病も、皆飲酒といふものが原因を爲すので、酒そのものは大いに注意せねばならぬのである。佛教の方などでは、五戒とか十戒とか三十六戒とか申して種々な訓戒があるが、皆此の酒を飲むといふことは、其の一つに加へられてある。殊に五戒は、飲酒戒、妄語戒、邪淫戒、偸盗戒、殺生戒とあつて、此の飲酒戒を破つた計りに、他の四戒を破り、遂ひ此の佛教で堅く戒められて居る五戒の全部を犯す。詰まり酒を飲むといふことがなかつたならば、之等の罪惡も恐るべき病毒も犯したり浸されたりすることがないのであつて、克く〳〵之れは世人は考へなければならぬ事であると思ふ。で近來此の花柳病患者の増加して來たことは上陳の如くであるが、之れに伴うて吾々花柳病專門醫の數も多くなつて、皆此の花柳病の爲めに生活してゆきつゝあるのであるが、世人がこの花柳病の導火線、原因となる酒を絶對に廢めて、吾々專門醫がこれでは生活してゆけないといふ様になるの日のあらんことを冀ふのである。

佛敎典の禁酒戒（二）

＝（十二頁つづき）＝

○**四分律** 自今より已知我を以て師と爲す者は乃至草頭の滴の酒と雖も口に入るを得ず。

○**梵網經** 若し自ら酒器を手にして人に與へ以て酒を飲ましむる者は五百世の間、手なからむ何況んや自ら飲むをや、一切の人に飲むことを敎え及び一切の衆生に酒を飲ましむることを得ず況んや自ら酒を飲むをや。

○**分別善惡所起經** 飲酒の三十六失を擧ぐ

佛言く人、世間に於て喜んで酒を飲みて醉へが三十六失を得、何等か三十六失なるや。

〔一〕子として父を敬はず臣として君を敬はざらしめ君臣父子上下あることなし。〔二〕語言亂誤多し。〔三〕兩舌多口す。〔四〕自と人との伏匿秘私を道ふ。〔五〕天を罵り社に尿して忌諱を避けず。〔六〕道中に臥して復歸ること能はず或は所持の什物を失ふ〔七〕自ら正しくすること能はず〔八〕低仰横行き或は溝坑に墮つ。〔九〕倒頓れて復起き身體を破傷す。〔十〕賣買するところ誤りて妄りに觸抵す。〔十一〕事を失ひ治生を憂へず〔十二〕所有の財物耗減す。〔十三〕妻子の飢寒を念はず。〔十四〕嚾罵り王法を避けず。〔十五〕衣を解き褌袴を脱ぎ裸形にて走る。〔十六〕妄りに人の家中に入り人の婦女を牽き語言干し亂れ過ち無狀なり。〔十七〕人々の傍らを過ぐれば與に共に鬪はむと欲す。〔十八〕地を蹋んで喚呼し四隣を驚動す。〔十九〕妄りに蟲畜を殺す。〔二十〕舍中の什物を撾捶ちて之を破碎す。〔二十一〕家室（妻）を視ること罪囚の如く語言口を衝いて出づ。〔二十二〕惡人を朋黨とす。〔二十三〕賢善を疎遠にす。〔二十四〕醉臥して覺むる時は身體疾病の如し。〔二十五〕吐逆して著くは惡露出て妻子すら其所狀を憎む。〔二十六〕心前蕩せんと欲し象狼も避くるところなし。〔二十七〕明經の賢者を敬はず道士を敬はず沙門を敬はず。〔二十八〕婬妖にして畏れ避くる所なし。〔二十九〕狂人の如し人之を見れば皆走る。〔三十〕死人の如く復識知る所なし。〔三十一〕或は疱面を得或は酒病を得正に萎みて黄熟す。〔三十二〕天龍鬼神皆酒を以て惡となす。〔三十三〕親厚、智識日に之を遠ざく。〔三十四〕踞踞して長吏を視或は鞭にて打たれ兩目を合す。〔三十五〕當に墮くるの終當に太山地獄に入り常に銷銅口に入り腹中を焦し過下し去るべし是くの如くして生を求むるも得難く死を求むるも得難きこと千萬歲なり。〔三十六〕地獄中より出で來り生れて人となるも常に愚痴にして識知る所なし、今愚痴にして識知るところなき人を見るに皆故宿命より酒を喜み嗜むの致す所なり是の如く分明なれば亦酒を愼むべし

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

經濟上より觀た酒害

醫學博士　羽太鋭治

□酒の生理的作用

或る人は酒を飲むと元氣が出るといふ。けれどもそれは眞の元氣が出るのではなくて、寧ろ反對にエネルギーを消耗しつゝあるのである。

先づ普通の飲酒家に就いて最も平易に之れを觀るならば酒類卽ちアルコール性飲料を取る時は、恰も精神機能の亢奮した樣な狀態となり、精神機能發揚して動作活潑となり、呼吸及び脈搏增加して體表殊に顏面の潮紅色澤の增加溫暖の感等を現はすのであるが、之れは眞の亢奮ではなくて、却つて中樞神經系一部の麻痺を意味するものである。

亢奮ではなくて麻痺であることを、一層委しく言ふならば精神機能の發揚（例へば大聲を發するとか、或は頗る饒舌る樣になるとかいふやうな）狀態は、大腦の一部が麻痺して居るが爲めに、精細なる注意、判斷、反省力等の減耗するが故であつて、亦顏面の潮紅色澤の增加は、脈管、運動中樞中の皮膚、顏面に分布せる脈管を司る部の機能の減衰に依るものである。

其の他呼吸の增加、溫暖の感、動作の活潑等を來す等、少量を飲料してさへ、中樞神經系の一部の麻痺を意味する。稍多量に常習性に飲用する時は、消化器の加答兒、脈管硬化其の他の疾病を惹き起すに至るのである。

□酒の病原的作用

私なども過去に於ては、或る機會から酒は私に採つて唯一の慰安者であるが如く考へて、非常に嗜んだものである。がそれは全然謬想て、飲酒の結果は決して慰安でもなければ快樂でもない。醉ふた結果は放逸に流れ、そして淪落に沈湎する。生理的には先きにも言つた如く決して良い結果は齎さないのであつて、實に私自身も血管硬化せるを自覺して、大正七年を期してそれ以來斷然禁酒し、爾來一滴の酒と雖も絶對攝らないのである。

實際に酒は藥用として用ふる以外、飲料としては絶對に宜敷くないのであつて、若し多量に常習的に飲用する時は、營養障害の結果終ひに慢性アルコール中毒を來すもので、其の主要なる徵候は器質的變化としては消化器系の加答兒、腎臟、心臟及 脈管の脂肪變性、竝びに結締織增殖等であつて、又機能的變化としては、思考力記憶力の減退、一層甚だしきに

至つては痴呆に陷り、言語澁滯、震顫行歩蹣跚等を生じ、亦は妄想、不安、不眠、躁狂等所謂酒客譫妄といふものをも惹き起す事が屢々ある。

また一時に大量を飮用すれば、泥醉し觀察力及判斷力が非常に減退し、意志錯綜して嗜眠を起し、其の極度に至れば脊髓麻痺し、脈管運動中樞も亦麻痺するが故に、脈管擴張して温度の發散を多くし、且つ温調節の中樞も麻痺するが爲め體温降下し、皮膚厥冷して次いて人事不省となり、往々にして死ぬことさへあるのである。

□酒の社會的害毒

酒が人體を害することは叙上の如くであるが、更に社會的に之れを考察するならば、其の弊害は到底枚擧に寧日ないのであつて、世人の既に熟知する通りである。

醉へば注意力、反省力を減耗する爲めに、平常では殆んど豫想だも及ばざる樣な事も平氣で仕出來すのであつて、犯罪なども正氣な人の犯したものと、飮酒の上に犯したものとの數を比較するならば、醉後犯した者の數は遙かに多いのである。亦醉後性慾の衝動を助長するために、最も不生産的にエネルギーを消耗する場合も多い。由來エネルギーは限りあるものであつて、一度消つたならそれは再び取り返へしは付かないのであつて、卽ちそれが爲めに身體の疲勞、衰弱を來たし、延ひては知らず識らずの間に生命を短縮するものである。亦彼の恐るべき花柳病にしても、此の酒を飮んだ上に藝者遊び、女郎買などの行はれる結果媒介せられるのであつて、此の意味に於て酒は花柳病蔓延の機會を爲すものであると謂ふことも能きる。

而してその一面には個人經濟は破壞せられ、人倫は荒廢し、幾多の悲劇は此處に發生するのであるから、個人的にも社會的にも、亦經濟的にも生理的にも、何れの方面から見ても、酒は有害なものであると云ふことを自己の經驗の上から私は考へ、且つ社會から一滴の酒(アルコール飮料の悉く)も驅逐して、將來絶對に存在せしめない樣に仕度いと希望するのである。

酒禍宣傳の急務

日本國民禁酒同盟理事
青木庄藏

一般國民は今尙酒を善い物かの如くに考へて居る。故に酒其物が如何に大なる害毒を流すかを大いに宣傳する必要がある。

第一犯罪の原動力は酒である。亞米利加の如きは、御承知の通り、旣に禁酒國となつたのである。其結果統計表に現はれて居るところの犯罪が禁酒後に於て八割減つた。又國民の能率が二割半増した。壽命からいつても、禁酒家は平均十二年以上長命である。或は婦人に關しても、親が酒を飮んだ爲に、其孫に當る者の乳が出なくなる、その多いことは統計にも明らかに示す所である。

又市俄古の如きは、禁酒以後、警察事故が減つた爲めに、警察署を二ヶ所も止て了つた。最近歸朝した人の話を聞くに、亞米利加の如きは、近來善い方に驚くべき程變つたといふことである。貯蓄が殖えて、犯罪が減じて、一般に一層眞面目になつたさうである。

兎に角今日の樣な我が國の狀態では、どうしても我が國民に對して、禁酒を宣傳して、飮酒といふことが、如何なる程度迄國家社會に害毒を流すものであるかといふ其教育を盛んにしなくてはならない。酒其物の害毒に就て、知識が乏しい爲めに、惡いと口では言つて居ながらも、それを廢めることが出來ないのである。實は酒其物に對する統計といふものが、我が國に甚だ不充分である爲めに、國民に覺醒を促すに不便である。國民が目醒めたならば、亞米利加の如く、酒を造る事も飮む事も賣る事も出來なくなる。道德上飮酒は罪惡だとわかつて來る。

我國民の如きも、道德上の精神に於て亞米利加に敗けない。寧ろ亞米利加人以上であると斷言して差支ない。然るに亞米利加は百年以來、禁酒の叫びがあつて、今日に至らしめたのであるが、悲しい哉、我が國の禁酒はまだ〳〵其所迄も達して居らぬ。それ故に教育も政治も實業も宗教も總てが眞面目を缺き、健全なる發達をしない。吾等が禁酒の事業を寸時も忽せにすることが出來ぬと思ふは此にある。我々は微力と雖も、それが爲に叫ばずに居られぬ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

男女問題研究史料

古典に現はれたる男女道德〔續〕

一條忠衞編

○五　結婚に關するもの(その一)

禮記の結婚觀

昏禮とは將に二姓の好を合せて、上は以て宗廟に事へ、下は以て後世を繼がんとするものなり。故に君子は之れを重んず。是を以て昏禮、納采、問名、納吉、納徵、請期には、皆な主人廟に筵几して、拜して門外に迎へ、入りて揖讓して升り、命を廟に聽き、敬愼重うして昏禮を正しうする所以なり。父、親ら子に醮して、命じて迎へしむ。男は女に先つ。子、命を承けて以て迎ふ。主人筵几して拜して門外に迎ふ。婿、鴈を執つて入つて、揖讓して堂に升り、再拜して鴈を奠く。蓋し親ら之れを父母に受け、降つて出て婦の車を御す。而して婿、綏を授け、輪を御すること三たび周りて、先づ門外に俟つ。婦至る時に、婿、婦を揖ふして以て入つて、牢を共にして食ひ、巹を合せて酳す。體を合せ、尊卑を同じうして、以つて之れを親しむ所以なり。敬愼、重正にして后に之れを親しむ。禮の大體なり。而して男女の別を成して、夫婦の義を立つる所以なり。男女別あつて后に夫婦義あり夫婦義あつて后に父子親あり、父子親あつて后に君臣正あり。故に曰く昏禮とは禮の本なり。

夫れ禮は冠するに始まり、昏に本き、喪祭に重んじ、朝聘に尊くし、射郷に和ぐ。此れ禮の大體なり。夙に興きて、婦、沐浴して以て見えんことを俟つ。質明に贊、婦を舅姑に見えしむ。婦、笲棗栗段脩を執りて以て見ゆ。贊、婦に醴す。婦、脯醢を祭し、醴を祭し、婦禮を成す。舅姑室に入るときに、婦、特豚を以て饋るは、婦の順を明にするなり。厥の明に舅姑共に婦を饗するに、一獻の禮を以て奠酬す。舅姑先づ西階より降り、婦は阼階より降り、以て代ることを著はす。婦の禮を成し、婦の順を明にして、又申ぬるに代ることを著はすことを以てするは、重く婦の順を責むる所以なり。婦の順とは、舅姑に順ひ、室人に和ぎ、而して後に夫に當ひ、以て絲麻布帛の事を成し、以て審に委積蓋藏を守るにあり。是の故に婦順備りて后に、內、和理す。內、和理して后に家、長久なるべし。故に聖王これを重んず。是を以て古の婦人は嫁するに先ち、三月に祖廟いまだ毀たざるときは、公宮に敎へ、祖廟既に毀つときは、宗室に敎ふ。敎ふに婦德、婦言、婦容、婦功を以てす。敎成つて之れを祭る。牲に魚を用ひ、之れを芼むるに蘋藻を以てす。婦の順を成す所以なり。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

6－7

古は天子の后、六宮を立つ。三夫人、九嬪、二十七世婦、八十一御妻、以て天下の內治を聽いて、以て婦順を明章にす。故に天下內和いて家理る。天子は六官を立つ。三公、九卿、二十七大夫、八十一元士、以て天下の外治を聽いて、以て天下の男敎を明章にす。故に外和いて國治まる。故に曰く、天子は男敎を聽き、后は女順を聽く。天子は陽道を理め、后は陰德を治む。天子は外治を聽き、后は內職を聽く。敎順俗を成して、外內和順し、國家理治す。此れを之れ盛德と謂ふ。是の故に男敎修らざるときは、陽事得ず、適、天に見え、日之れがために食す。婦順修らざるときは、陰事得ず、適、天に見え、月これが爲めに食す。是の故に日食するときは、則ち天子素服して六宮の職を修め、天下の陽事を蕩す。月食するときは、則ち后素服して六宮の職を蕩し、天下の陰事を蕩す。故に天子の后と猶ほ日と月と陰と陽との如く、相須つて後に成るものなり。天子の男敎を修むるは、父の道なり。后の女順を修むるは母の道なり。故に曰く、天子と后とは猶ほ父と母との如し。故に天王の爲めに斬衰を服するは、父に服するの義なり。后の爲めに齊衰を服するは、母に服するの義なり。（禮記、昏義）

○天地合ふて而して後に萬物興る。夫れ昏禮は萬世の始なり。異性を取ることは、遠を附け別を厚くする所以なり。幣は必ず誠をす。辭は腆らずと云ふこと無し。これに告ぐるに直信を以てす。信は人に事ふるなり。信は婦德なり。壹たびこれと與に齊うして、身を終るまで改めず。故に夫死して嫁がず。男子親迎するときは、男は女に先つは剛柔の義なり。天は地に先ち、君は臣に先ちはその義一なり。摯を執つて以て相見ゆるは、敬んで別を章はすなり。男女別あつて、然る後に父子親しむ。父子親んで然る後に義生る。義生りて然る後に禮作る。禮作りて然る後に萬物安し。別なく義なきは禽獸の道なり。婿、親ら御して綏を授くるは、之れを親まんとすればなり。敬んで之れを親むは、先王の天下を得たる所以なり。

大門を出て先ち、男は女を師ひ、女は男に從ふ、夫婦の義これより始まる。婦人は人に從ふ者なり。幼きときは父兄に從ひ、嫁しては夫に從ひ、夫死しては子に從ふ。夫とは夫なり。夫とは知を以て人を師ゐる者なり。玄冕して齊戒するは、陰陽を鬼神にするなり。將に以て社稷の主と爲して、先祖の後と爲さんとす。而して以て敬を致さゞる可けんや。牢を共にして食ふは、尊卑を同じうするなり。故に婦人は爵なく、夫の爵に從ふ。坐するときは夫の齒を以てす。器に陶匏を用ゐるは、禮を尚ぶの然らしむるところなり。三王、牢を作りて陶匏を用ゐ、その明に婦盥ふて饋る。舅姑、食を卒へば、婦、餘りを餕ひ、これを私するなり。舅姑は西階より下り、婦は阼階より降るは、之れに室を授くるなり。昏禮に樂を用ゐざるは、幽陰の義なり。樂は陽の氣なり。昏禮賀せざるは人の序なり。（禮記、郊特牲）

○結婚に關するもの（その二）

萬章問うて曰く、詩に云へり、妻を娶るは之れを如何、必ず父母に告ぐと、斯の言を信ぜば舜の如くする莫かるべきか、舜の告げずして娶れるは何ぞや。孟子曰く、告ぐれ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ば娶るを得ず、男女室に居るは人の大倫なり、如し告ぐれば人の大倫を廢し、以て父母を懟まん、是を以て告げざるなり。萬章曰く、舜の告げずして娶れるは吾既に命を聞くを得たり、帝の舜に妻はして告げざるは何ぞや。曰く帝も亦た告ぐれば妻はすを得ざるを知ればなり。孟子(萬章々句上)

○昏時に禮を成す。故に昏と曰ふ。婦人夫に因りて成る。故に因と曰ふ。(班固撰集の白虎通義)

○夫婦は人倫の大綱、天壽の萠なり。世俗嫁娶太だ蚤し。未だ人の父母たるの道を知らずして、而して子あり。是を以て教化明ならずして、民多く夭す。(漢書)

○桃の夭々たる、その葉蓁々たり。この子こゝに歸ぐ。その家人に宜し。(詩經、桃夭)

○また曰ることあり。凡そ人その妻を出さんとせば之れに離縁狀を與ふべしと。然れど我汝曹に告げん。姦淫の故ならでその妻を出す者は、之に姦淫なさしむるなり、又出されたる婦を娶る者も姦淫を行ふなり。基督(新約書、馬太傳)

○パリサイ人等來り、イエスを試みて言ふ。人なにの故に係はらず、その妻を出だすは宜きかと。答へて曰へけるは、人を造り給ひし者は元始よりこれを男と女とに造りたり。是の故に人はその父母を離れ、その妻に合ひて、二人の者一體となるべしと言ひるを未だ知らざるか。然ればはや二人にはあらず、一體なり。この故に神の合せ給ひし者は人これを離すべからずと。彼等イエスに言ひけるは、さらば何故にモーゼは離縁狀を與へて妻を出だすことを命じたるかと。彼等に曰ひけるは、モーゼは汝等の心の無情によりて妻を出すことを許したり。されど元始には否らざりき。我汝等に告ぐ。若し姦淫の故ならでその妻を出だし、他の婦を娶る者は姦淫を行ふなり、又出されたる婦を娶る者も姦淫を行ふなり。弟子等イエスに曰ひけるは、人もし妻のことを於て斯の如しとせば、娶らざるに如かずと。彼等に曰ひけるは、凡ての人この言を受け容るゝにはあらず、たゞ授けられたる者のみなり。それ生れながらの閹人あり、人に爲られたる閹人あり、また天國の爲めに自らなりたる閹人あり、これを受け容れ得る者は受け容るべしと。(新約書、馬太傳、十九)

○婚姻を爲さゞる人及び寡婦に向ひて我は言ふ。その儘にしかも我の如くにして居らば、我等に取りては善きことなり。然れど若し自ら制すること能はずば、宜しく婚姻すべし。保羅(新約書、哥林多前書、七)

○結婚は萬事に於て尊かるべし。牀を汚すこと勿れ。神は私通者及び姦淫者を審判し給ふ。保羅(希伯來書、十三)

○一夫一婦が正當なる夫婦關係なりしことを彼等は何故に知らざりしか。思ふに、人類の可性性の社會に於ける實際の實現が、未だ一切の女子は自己を規定し自己を尊敬する人格者として、正當なる且つ同等なる神聖を有することを理會するの階段に達せざりしに由る。社會は未だ人道をば如何なる人の人格に於ても何時もこれを目的として遇すべく、決して單に方便として遇すべからざる主義が十分普遍的に領得せらるゝの狀態に達せざりしなり。然るに今日吾人が了解する如き貞潔の責務に合理的根抵を與ふるもの

は、獨りこの主義の存するが爲めなり。如何樣にこの主義が陳述せらるゝとせよ、近代の基督敎國の社會がこの主義に從ひて實行するに至らざるの遠きは言を要せざれども、その良心に於ては古代に認容せざりし此の主義を認容するなり。一切の人に法律上人格的權利を賦與するが故に、他人の要求を容るゝの心意ある者は、女子を自己の快樂の奴隷として遇して、その淩辱を顧みざることの不正を看過すること能はざるなり。此の不正は今尙ほ習慣的に行はれつつありと雖も、そは良心の非難の下に行はれつゝあるなり。然る・アリストテレースの時代の希臘人はその周邊には奴隷狀態にある女子多く、又かゝる狀態とは異るべき社會の理想を有すべき能力(哲學者の書類にて推斷すれば)なき故に、斯かる良心の非難は一向感じ能はざりしなり。斯かる感受性はたゞ現在社會の構造が變化して、人格なるものに男女の差別なく、權利の主體となるに至るよりして始めて生起する者なり。固よりこの變化に關しては既に本書の前段に指摘したる如く、吾人の道義的性質の基本を成すところの要求――個人が自身の善たると同時に又他人の善たるべきところの善を要求すること――が體をなしたるものなり。されども此の要求が先づ一切の人に對する權利を與ふる所の法律及び制度を成立せしめて、然る後に一般の良心が今日吾人が承認するが如き貞潔の規則を女子の人格の神聖に本づきてこれを命令し得るなり。而して此の事に關して吾人の理想が希臘哲學者の理想よりは一層嚴肅になりたるは、全く社會の構成に於ける現實の變化に率由するが如く、又尙ほ一層進んで一般にこの理想に順應するに至り得るは、全く社會の變化が更に一段の進步を爲すによるなり。既に基督敎國に於て建設せられたる法律上の消極的同等は一層積極的の狀態の同等及び女子が女子特有の世路を行き得る一層實際なる可能性によりて補充せらるゝ如く、吾人が承認する貞潔の規則が一般に實行せらるゝに至るは、唯だ女子が一層一般にこの規則背犯に同意することを肯んぜざるによりてのみなり。グリーン(倫理學序論、二六七節)

○六　家庭に關するもの

謂ゆる國を治むるには先づ其の家を齊ふとは、其の家を敎ふ可からずして、能く人を敎ふる者なければなり。故に君子は家を出でずして敎を國に成す。孝は君に事ふる所以なり。弟は長に事ふる所以なり。康誥に曰く、赤子を保ずるが如しと。心誠に之れを求めば中らずと雖も遠からず。一家仁なれば一國仁に興り、一人貪戾なれば一國亂を作す。其の機此の如し。此れを一言事を僨り、一人國を定むと謂ふ。堯舜天下を師ゐるに仁を以てして民これに從ひ、桀紂天下を師ゐるに暴を以てして民之れに從ふ。其の命ずる所は其の好む所に反して民從はず。是の故に君子は諸れを己に有りて后ち諸れを人に求め、諸れを己に無くして后ち諸れを人に非とす。身に藏むるところ恕ならずして、能く諸れを人に喩す者、未だ之れあらず。故に國を治むるには其の家を齊ふるに在りと。詩に云ふ、桃の夭々たる、其の葉蓁々たり。この子こゝに歸ぐ、其の家人に宜しと。其の家人に宜しくして、后ち以て國人を敎ふべし。詩に云ふ、兄

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

に宜しく、弟に宜しと。兄に宜しく弟に宜しくして、后ち以て國人を敎ふべし。詩に云ふ、其の儀忒はず、是の四國を正すと。其の父母兄弟と爲り法るに足りて、后ち民之れに法るなり。此れを國を治むるには其の家を齊ふるに在りと謂ふ。（大學）

○女曰へらく、雞鳴きぬと。士曰へらく、昧旦なりと。子興きて夜を視よ。明星の爛なるあり。將に翔けんとし、將に翔らんとす。鳧と鴈とを弋よ。（詩經、女曰雞鳴）

○家人に嚴君あり。父母の謂なり。父父たり、兄兄たり、弟弟たり、夫夫たり、婦婦たり、而して家道正し。家を正しうして天下定まる。（易、下經、家人）

○人、恆に言あり、曰く天下國家と。天下の本は國にあり、國の本は家にあり、家の本は身にあり。孟子（離婁章句上）

○身、道を行はざれば、妻子にすら行はれず。人を使ふに道を以てせざれば、妻子にすら行ふ能はず。孟子（盡心章句下）

○夫れ人民ありて而して後に夫婦あり。夫婦ありて而して後に父母あり。父母ありて而して後に兄弟あり。一家の親は此の三者のみ。（顏氏家訓）

○家貧なれば良妻を思ひ、國亂るれば良相を思ふ。李克（史記、魏世家）

○神を懼れ、其の道を歩む者は皆な福なり。そは汝己が手の勤勞を食ふべければなり。汝は福祉を得、また安處に居るべし。汝の妻は家の奥に居りて、多くの實を結ぶ葡萄の樹の如く。汝の子等は汝の筵に圓居して、彼等の若木の如し。視よ、神を懼るゝ者は斯く福祉を得ん。（舊約書、詩篇、百二十八）

○各種の政體は其の善惡を問はず、悉く之を家族内に於て見るを得べし。家族は言はゞ諸政體の模型の存する所なり。先づ父子は一の共同團體を成し、その關係は王政に於けると同一にして、父は子の幸福を欲求するなり。是れホーマーがツエウス神を呼んで「吾人の父」と稱せし所以なり。唯だペルシャ人の間に在りては之れと趣を異にし、父のその子に對する關係は專政的なり。彼等のその子を遇すること猶ほ奴隷に於けるが如し。若し主人とその僕との關係に至りては、その目的一に主人の安泰にあるが故に又た專政的のものなり、而して斯かる主僕の關係は固より正當ならんも、ペルシヤ人のその子に對する處置に至りては、是れ誤なり。奴隷の如く一種特別の性質ある者にして、始めて特別の待遇あるべきを以てなり。又人のその妻に對する關係は貴族的なり。即ち夫たる者は妻より優れたる價値あるが爲めに治權を有するものなり。但し此の治權はこれを制してその適度の範圍に止め、妻の爲すべき事は之れを妻に許すものなり。夫にして若し何事にても濫にその妻を支配する事あらば、夫婦の關係は墮落して夫權は寡頭政治とならん。何となれば、斯かる權勢は已に自己の權利に基かざるものにて、その正義に反すること遠ければなり。然るに又た妻が嫡女なりとの故を以て自ら治權を握る場合あり。斯かる無制限の權勢はその夫にあると妻にあるとを問はず、是れ已に自己の正當なる價値に基きて生じたるにあらずして、却

つて不當の要求に基ける者なり。卽ち妻の場合には富の爲なるべく、夫の場合には威力の爲なるべし。斯かるものゝ爲めに誤れる要求を爲すは、是れ寡頭政治の出現する所以なり。

アリストテレース（ニコマス〆ス倫理學、入章）

○ 樂しき家庭

旅のやどりの佗しさは、宮もわら屋も同じこと、
わが家離れていづくにか、心安けく世を經べき。
樂しのわが家なつかしの、
　わが家にまさる里はなし、わが家にまさる里はなし。
富もほまれも何かせん、樂しき鳥のこゑ聞きて、
心のどけく送りてし、むかしの春よ今いづこ。
樂しのわが家なつかしの、
　わが家にまさる里はなし、わが家にまさる里はなし。
むかしの春の樂しさを、心にしめて忍ぶかな。
わが家離れていく年か、旅寢かさねしけふにして。
樂しのわが家なつかしの、
　わが家にまさる里はなし、わが家にまさる里はなし。

（英國古歌）

七　女子の道德に關するもの

○ 女子許嫁して纓するときは、大故あるにあらざれば其の門に入らず。姑姉妹女子々すでに嫁して反へるときは、兄弟とともに席を同じうして坐せず、ともに器を同じうして食はず。（禮記、曲禮上）

○ 天子には后あり、夫人あり、世婦あり、嬪あり、妻あり、妾あり。（禮記、曲禮下）

○ 天子の妃を后といひ、諸侯のものを夫人といひ、大夫のものを孺人といひ、士のものを婦人といひ、庶人のものを妻といふ。公侯には夫人あり、世婦あり、妻あり、妾あり。夫人自ら天子に稱するときは老婦といひ、自ら諸侯に稱するときは寡小君といひ、自らその君に稱するときは小童といひ、世婦より以下は自ら稱して婢子といふ。（禮記、曲禮下）

○ 女を天子に納るゝときは百姓に備ふといひ、國君に於ては酒漿に備ふといひ、大夫に於ては掃灑に備ふといふ。（禮記、曲禮下）

○ 婦の舅姑に事ふること父母に事ふるが如くす。（禮記、內則）

○ 凡そ婦は私室に適けと命ぜられざれば、敢て退かず。婦、將に事あらんとするときには、大小必ず舅姑に請ふ。子婦は私の貨なく、私の畜なく、私の器なし。敢て私に假らず、敢て私に與へず。之に飮食、衣服、布帛、佩帨、茝蘭を賜はることあるときは、則ち受けて諸れを舅姑に獻る。舅姑これを受くるときは、則ち喜ぶこと新に賜を受くるが如くす。若し反し賜はるときは、則ち辭す。命を得ざるときは、更に賜を受くるが如くし、藏めて以て乏しきを待つ。婦もし私親兄弟ありて將に之れを與へんとするときは、則ち必ず復たその故を請ひ、賜はつて而して後に之れを與ふ。（禮記、內則）

○ 婦に七去あり。父母に順はざれば去る、子なければ去る、淫なれば去る、妬あれば去る、惡疾あれば去る、多言なれば去る、竊盜すれば去る。三不去あり。取るところありて歸るところ無ければ去らず、更に三年の喪を與ふれば去ら

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ず、前に貧にして後に富貴なれば去らず。（小學、明夫婦之別）

○貞靜幽閒、端莊誠一は、女子の德性なり。孝敬仁明、慈和柔順にして、德性備はる。夫れ德性は稟くるところに原き、而して化る習に成る。外より至るにあらず、實に身に本づく。古の貞女は情性を理め、心術を治め、道德を崇べり。故に能く君子に配して以て其の敎を成せり。是の故に仁以て之に居り、義以て之に行ひ、智以て之に燭し、信以て之を守り、禮以て之を體す。禮にあらざれば履むことなかれ、義にあらざれば由ることなかれ。動くには必ず道に由り、言へば必ず信に由り、言ふべきにあらずして言へば則ち厲階成る、禮にあらずして動けば則ち邪僻形はる。閑は以て言を限り、玉は以て動を節し、禮以て心を制し、道以て欲を制し、其の德性を養ひ、身を飭ふる所以、愼まざるべけんや。性に損することなきものは、乃ち以て德を養ふべし。德に累なきものは、乃ち以て性を成すべし。過を積むこと小にして、德を害ふ大なりとなす。故に大厦の傾き頽るゝは、基址固からざればなり。己の身の飭はざるは、德性顯くることあればなり。美玉の瑕なきは、至寶と爲すべし。貞女の德に純なるは、京室に配すべし。身を撿めて制度あるは、母儀となるに足る。勤儉にして妬まざるは閨閫の法るに至る。若し夫れ驕盈嫉忌、意を肆にして情に適ひ、以てその德性を病しむるは、斯れ亦た取るところなし。古語に云ふ、身を處するには宅を造り、身を飭るには德を建つと。詩に云ふ、爾をして爾の性を彌をらしめば、純嘏爾の常ならんと。

仁孝文皇后（內訓、德性章）

○女子出てゝ嫁げば、夫主親をなす。前生の緣分にして、今の世に婚姻す。夫をもつて天に比し、その義輕きにあらず。夫剛にして妻柔、恩愛相因る。家に居て相待つや、敬ひ重んずること賓の如く、夫言語あらば、耳を側てゝ詳に聽き、夫惡事あれば、勸め諫めて諄々たり。愚婦の禍を惹きて、身に臨むを學ぶなかれ。夫若し外に出づれば須く途程を記すべし。黄昏未だ返らざれば、瞻望尋し、燈を止め飯を溫め、門を敲くを等候す。學ぶなかれ、懶婦の先づ自ら身を安んずるを。夫如し病あらば、終日心を勞し、多方藥を問ひ、遍處神に求め、百般の治療、長生を得んことを願ふ。學ぶなかれ、蠢婦の如く心を憂ひざるを。夫若し怒を發するも、瞋を生すべからず。身を退けて相讓り、氣を忍び聲を低うせよ。學ぶなかれ、潑婦の鬪閙頻々なるを。粗絲細葛は、熨帖縫紉し、寒冷をして夫の身を凍損せしむるなかれ。家常の茶飯も、供待慇懃にし、饑渴して瘦瘠苦辛せしむるなかれ。甘を同うし、苦を同うし、富を同うし、貧を同うし、死しては葬穴を同うし、生きては衣衾を共にす。能くこの語に依らば、和樂瑟琴なり。此の如きの女は、賢德の聲聞ゆ。

宋若照（女論語、事夫章）

○凡そ女子となり、習ふて以て常と爲す事は、五更鷄唱へて起つて衣裳を著く。盥漱已に了れば、隨意梳粧し、柴を揀り火を燒き、早く厨房に下り、鍋を磨き鑊を洗ひ、水を煮、湯を煮る。家の豐儉に隨ひて、蒸煮食嘗し、蔬菜を安排し、豉を炮き虀を舂き、時に隨ふて料を下し、甜淡馨香あり。碗碟を整齊し、鋪設分張し、三餐飯食、朝暮相當

る。晨を侵して早起すれば、百事妨なし。學ぶなかれ、懶婦の思量を解せず、黄昏一覺して、直ちに天光に至り、日高きこと三丈、猶ほ未だ床を離れず、起來已に晏く、却つて是れ慚惶れ、未だ曾て梳洗せず、突ちに厨房に入り、容顔齷齪、手足慌忙、茶を煎じ飯を煮て、時常に及ばざるを。又一等あり。鋪餟爭ひ嘗め、未だ曾て炮饌せず。己に偸み藏し、醜、鄕里に呈はれ、辱、爺孃に及び、人に傳說せらる。豈に羞愧せざらんや。

宋若照（女論語、早起章）

○古は女を生めば三日の間之を床下に臥せしめ、之に瓦磚を弄ばしめ、而して齊して告ぐ。之を床下に臥せしむるは、其の卑弱、人に下るを主とするを明にするなり。之に瓦磚を弄ばしむるは、其の勞を習ひ、勤を執るを主とする事を明にするなり。齊して先君に告ぐるは、當に祭祀を繼ぐを主とすることを明にするなり。三者は蓋し女人の常道にして、禮法の典敎なり。

曹大家（女誡、卑弱第一）

○夫れ意を一人に得る、是を永く畢るといふ。意を一人に失ふ、是を永く訖るといふ。人をして志を定め心を專にせしめんと欲するの言なり。舅姑の心豈に當に失ふべけんや。物は恩を以て自ら離るゝものあり。亦た義を以て自ら破るるものあり。夫愛すといふと雖も、舅姑非といふ、夫れ所謂義を以て自ら破るるものなり。しからば則ち舅姑の心いかん。故に曲從より尚きはなし。姑、不といふて是ならば、固より宜しく命に從ふべし。姑、是といふて非ならば、猶ほ宜しく命に從ふべし。是非に違戾して曲直を爭分するを得るなし。此れ則ち曲從なり。故に女憲に曰く、婦は影響の如しと。焉んぞ賞すべからざらんや。

曹大家（女誡、曲從第六）

○賢婦の價は眞珠よりも貴し。誰か彼女に遇ふことを得んや。その夫は深く彼女を信賴し、その所得に乏しきことなし。賢婦は終生その夫の爲めに善を爲して惡を爲さず。彼女は羊毛と麻とを求め、喜びて手づから働くなり。遠地より安價なる糧を運ぶこと猶ほ商船の如し。朝は未明より起きてその家人に食を整へ、婢女にその日の仕事を授く。田畑を擇んでは之れを購ひ、その貯蓄によりて葡萄園を作る。腰には德力を帶してその腕を强くす。商品の利益を貴び、夜は燈下に業を勵む。手を捲絲車に伸べ、指に紡錘を執る。貧者に同情して窮者を慰撫す。彼女は家族の爲めに暖衣を備へたれば雨雪を恐れず。手づから寢衣を製し、紫の帛を纏ふ。その夫は公庭に坐して衆人に名望あり。彼女はまた麻衣を作りて賣り、帶を織りては商人の手に渡す。德力と榮譽とは賢婦の衣なり。賢婦には杞憂なし。彼女口を啓けば智慧を述べ、舌は親切の道に充てり。賢婦は家事に周旋して、自ら徒食せず。彼女の子等は集りて彼女を幸福なる母と呼ぶ。その夫もまた彼女を賞讃して曰ふ、世に賢婦多けれども汝に優る者なしと。かの寵愛は恃むに足らず、美人多く薄命なり。唯だ神を畏敬する女子は祝せられん。彼の女の勞作に酬えよ。その功績は弘く世に表彰せられん。

（舊約書、箴言、三十一）

―完―

自由平等とは何か

水津千雲

□

自由平等といふことに就ては多くの學者識者に依て論議され、又演說もされて頗る平凡な問題てあるけれども、現代靑年の如く外來思想に惑溺して、殆んど狂人染みた現狀を呈し、社會の平和を攪亂することを見ると、自由平等てふこの問題に對して徹底的の見解を與へて世人を戒むるといふことは、決して徒勞の業てないと思ふ。而して私の今玆に述べるのは全く獨創的てあつて、若し是れと同じ議論をする人があるとするとそれは自然に一致したものと思うて貰ひたい。或は又自分の見解は全く誤つて居るかも解らないが、夫れは識者の判斷に委すのてある。

第一自由平等などいふことは、誰が發明したことか、恐らく人間以外には無からうと思ふ。人間が勝手に名付たものに相違ない。人間が勝手に造つたのだからこの自由平等といふことは、絕對のものてはない。絕對のものてないとすれば、相對的のもので、如何に自由平等を呼んても、考へても、自由平等の絕對的のものは得られない。人間個人が寄つてたかつて都合よく作つた社會に於て、個人個人が自由平等の得られる譯がない。此麽事は常識でも解される話てある。眞に自由平等の得られるものと思うて主張する人は、馬鹿か狂氣か將た精神上兎角の不具者てあるか何かの政策てある。

□

レーニンやトロツキーが自由を稱導しても、彼等は更に働かざるものにはパンを與へないと言ひ、働いて食ふことの出來ないものが一人でもあれば、誰も甘い物を食ふまいといつて自由平等の中に、更に彼樣な束縛を造つて居るではないか自由平等を稱へて、反面たる束縛や牽制や壓迫を避けんとするが、此の束縛や牽制や壓迫といふことは規範の極度に達したもので、この規範といふことは、人間其の者の心理的働て、先天的に人間自然に天賦された性狀、卽ち本能性てあるのてある。

規範性と自由平等性は、人間其者の本能性なのだ、故に人間の理想的發達といふものは、この自由平等性と規範性とが平立し、同程度に發達して行くのか完全なる進步てなくてはならぬ。又此れが一方發達した人間は不具者てある。眞の人間味を理解し能はざるところの不幸な人間てある。決して人間の幸福と平和とは物質の多くを所持する資本家てもなければ、有名な專門學者となるのが幸福ても平和てもない。大臣になつても市長になつても何んてもない。一勞働者て其日暮しの卑賤漢と言はれるものても、此の兩性狀が平等に發達して行き得るならば眞の幸福て、平和て、立派な人格者てあらねばならぬ。私はこの人間味丈けのこと

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

て生存して居るので、これを取り去らば死んて差支へない。これが眞の人間の理想て、所謂自由平等に憧れる人の天地は此所にある。

□

自己の思想を自由に言ひ表はすと克く人が言うて居るが、自由に言ひ表はすには文法があり、修辭があり、ロヂックがある。これは自由を規範したのてある。文を學ぶ初めは、この文法や、レトリックや、ロヂックに甚だしく拘泥して、非常な窮屈さを感ずるのは誰れも一度はあることてあらう。併しこれが自然に苦しくなつて、これ等規範に依つて自由に思想を言ひ表はすやうになるのは、我々人間の心理的作用が自由と規範と兩方あるからて、何時の間にか自由と規範が融合するからだ又規範なくては物事は取纒め統一することは出來ぬものてある。

破壞は自由てあるが、其の破壞も靜かに考へたら一定の順序がある。卽ち規範されなくては破壞も亦出來ないのてある。又破壞は建設には相違ないが、破壞されるものと、建設されるものとの價値は比較が出來ないに依つて、社會學の原則としては、茲に進化を認める譯となるのてある。而して、束縛や壓迫を避けんとしても、社會其者は人間の本能的性狀たる規範性に依つて組織されるもので、人間心理の規範性の具體化したものは、この社會なのてある。故に社會的生存を欲して社會の規範を脫せんといふのは恐くは矛盾てあり、撞着てある。

社會を離れ、宇宙萬象を離れたる人間一個は絕對自由てあらねばならぬ、それは卽ち死といふことに到達するのてある

□

如此人間も社會も規範が極度に進めば自由を叫び、自由放縱に流るれば規範束縛を與へて進化するのが社會であり、人間てある。此理法がよく理解され自覺さるれば、先づ自己を如何にして修練するかに思ひ及ぶべき筈なのてある。而してこの兩性狀の平等發達に及ぶとき、吾等は愛を以て他の自己の多くを理解せしめなくてはならぬ。卽ち社會を覺醒せしめなくてはならぬ。

外來思想何物ぞ、デモクラシーも過激思想も夫れほど大した尊敬を拂ふ價値はない。唯だこの思想に迷ふものをして救ひ出す丈が吾々の努力を要する譯合なのてある。

□

して見ると、社會に規範は免れぬといふことは理解されると同時に、社會には規範的に自ら階級が形成せられるといふことも、決して否認することは出來ないことになる。それは社會が有機的に生存して居るからて、自ふからこの規範的な階級は認めなくてはならぬ。

社會の爲すべき仕事が整理されればされるほど規範が八ヶ間敷なり、規範が極度に進む丈け階級が生じて來るのてある。其處て何うしても一面社會的の自由を與へ、一面社會を規範する爲めに公平なる社會制度を見んとするには、社會の中心となる中堅となる人間國民を造ることが必要になる。其の中堅國民は、如何なる職業如何なる種類のものてなくてはならぬかといふと、先づ社會を解剖して其の職業から說明しなくてはならぬ。卽ち社會は、家族の樣な小社會ても、會社のやう

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

な銀行のやうなものでも、之れを縦断して生活程度に依つて分つとすれば、三段に分つことが出來るが、之れは社會學は經濟學なりと言つた學者などの偏狹な分類である。自分を以て言はしむれば、社會は縦に三ツの系をなして居る。人間國民が居る。即ち精神系、勞働系、物資系である。

此の内精神系にあるものは、生活する爲めに活くるのでなくて、働く爲に生活するを原則とする國民であらねばならぬ。勞働系に在るものは、讀んで字の如く精神系より起る社會的生存の意義のために、勞力を提供する多くの國民にして、此れ又働かんために生活を欲すべきものであるのが原則である。又物資系に在るものは、物資のために働く國民で、これまた物資を供給するために生存しなければならぬことを原則とせねばならぬ。

□

之れを政治的に言へば、社會てふ有機體の必然的欲望で、便利的生活に活動する國民とは異つて居る。この異つて居る國民中、精神系に屬する國民は、所謂智識的階級に屬する國民なるが故に、社會の中堅として立たなくてはならぬ。

例へば學者、宗教、教育家、醫師、辯護士、操觚者、官公吏殊に司法官、警察官の如きものは精神系に在るの國民である。故に社會が、規範を逃れむとの輿論が起れば、之れに對應して自由性を與ふべく研究對應し、自由性が極度に進めば、これ等精神系に在るの國民は、其の方法を採つて調節すべきものである。

遠く德川氏治政三百年の制度は武士を中堅として居たのであるが武士の訓練の上には固より多少の缺陷はあつた併し制度は頗る見るべきものがないではない明治の初年に於て維新の大業を遂げたのは武士の變形したる士族の事業であつたのは事實であるこの士族は國民の中堅として政治界に宗教界に教育界に實業界に活動したために文化の上に長足の進歩を來したことも事實である然るに明治政治に於ては一面國民平等の權利を認めたるがために四民平等となり中堅として因襲的に來つた士族は其活力を失ひ社會は變調を呈して來たのである然れどもこれ代ふるべき國民は依然として形を代へて明治より大正の年代にかけて生じて居るのである即ち精神系屬の國民其者である武士＝士族＝精神系屬の國民となるのである茲に注意すべきはこの國民は如何なる小社會にも見出し得る國民で一家に於ても亦之れを成形基礎として見出すことが出來るものである。

夫れ故精神系にあるものは、社會國家は常に之れに或る特權と待遇と保護とを與へておけば、國家は安全である。日本勞働問題なども、精神系國民の刺激によつて起つたもので、勞働者は左程に痛切に感じては居ない。居てもそれは充分鎭定することは出來るのであるか、日本政府は、中堅國民を無視して生活の不安を與へた爲め、勞働問題に依つて精神國民の不平を漏したに過ぎない。

經濟學者は、資本家と勞働者とに分類するけれど社會が若しこの二つになつたら羅馬の末世と同様になる。要は中堅國民を造ることで、その方法は色々あるが、茲にはそれを省略する結局、自由平等などいうても絶對的でなくして、相對的のものであるとの理解が、國民一般に理解されゝば甚だしい問題はない筈だ

勞働運動と人生問題（三）

辯護士　布施辰治

□公平分配と產業自治(下)

現に從事して居る或種の事業が社會の爲にもなり、國家の爲にもなり、又私共人類の幸福にもなる、最も好い仕事であると云ふ信念を有ち得る勞働者は、其の事業に對して積極的の干與を要求する事が出來ねばならない筈である。誰れが何んと云はうが、其の事業を離れることの出來ない社會協同の關係が容されて行かなければならないと信ずる。從つて今日の樣に自らの適材を適所に發揮する天職を任じて居る勞働者自身は社會の爲め國家の爲め人類の爲めの事業として干與して居りながらも、それは何の某が其の事業をやつて與れるから之に與かる事が出來るのである。若し何の某が其の事業を廢めて仕舞へば、國家の爲め社會の爲め人類の爲に、自らの適材を適所に發揮する天職を任じて居た勞働者と云へども其の事實に與かる事が出來ない、又出來なくとも仕方がないと諦める譯には行かない筈だと思ふ。之れ卽ち、產業自治の思想は、何の某が事業を始めて與れゝば夫れに干與して生產したる利益を公平に分配して貰へば良しいと云ふ公平分配の思想よりも一步を進めて居る所以であらうそして私の信念する產業自治の思想は勞働者の適材を適所に置く事を許されたる社會生活の相互扶助を完うする爲め協働なのであるから、誰にも廢められないものでなければならないと云ふ結論に爲るのである。果して然らば、斯の如き產業自治の社會生活を政治的に樹立する方法奈何、經濟的に確保する組織如何と云ふ事になるのであるが、我國今日の勞働問題は其處まで進んでは居らないから其處迄論及する必要がない、けれども今日以後、勞働問題の益々大ならんとするに伴ふて頻出する勞働條件の對價的改善要求は生きんが爲めの要求であり、喰はんが爲めの改善である丈け、悲慘なる同盟罷業の有樣に外ならない事を批判的に考察せんとする便宜上、先づ是れ丈けの事を廣く一般の諒解に訴へて置く所以である。

□勞働と生活

一體、私共は何の爲に勞働するのであるかと云へば、喰ふ爲に働くか、働く爲に喰ふかと云ふ、昔ながらの禪問答其の儘未だに決せられて居ない如うであるが、私の信ずる所に由れば、喰ふ爲に働くのでもなければ、働く爲に喰ふのでもない天職の使命を任じて立つ社會的國家的の貢獻を勵む私共人類の幸福の爲に自ら許されたる適材を適所に發揮する事が私共の勞働である。と同時に、左樣した勞働の社會的國家的貢獻を認めて、國家と社會とが、私共の生命を保障するのが眞の生活でありたい。而して其の働くことが社會的國家的に貢獻するが爲に、私共は喰はんとするに急な意地穢

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

なさの爲に働くのでありたくない。私共は社會の爲に國家の爲に人類の幸福の爲に働きたい。そして私共の働いた事にお蔭を被むる國家と社會と人類とは、私共に其の生活を維持する爲に營養の資の事を缺かしめず、能く働くべく長く生きて居つて貰ひたいと云ふ事で在りたい。斯くして當然に喰ひ、且つ自然に生きたい、つまりは喰ふ事も生きて居る事も、私共は私共直接に考へたくない。私共は只だ其の天職の使命を完うせんが爲に生きて居るのであり、喰ふて居るのであると言ひたい。

けれども、今日の社會組織に於ける私共一般國民の實際生活は、悲しい哉先づ喰ふ爲に働くか、働く爲に喰ふかと云ふことを、尤も痛切な問題として考へなければならぬ程度に切迫して居る。實際左樣した切迫に惱ましめられて居る。茲に於て乎、私は謂ふ、改造運動の犧牲を任ずるもの、實際生活は眞に苦しい、彼等は先づ自ら生きる爲に働いて居る、而して更らに、適材の發揮を完うした社會國家人類の爲にと云ふ一大信念の使命を考へて居る、先づ自ら生くる爲の働きを働いた上に、他を生かす爲に働いて居るのが社會運動の犧牲を任ずるもの、努力である。彼等は、實に二人前も三人前も働いて居るのである、が、しかし、私共一般國民多數者の實際生活は適材適所の發揮を考ふる丈けの餘裕を與へられて居らない只だ生きて居らねばならぬと云ふ最も痛切な問題に追はるゝ其の日を生きて居るのみであるのは如何にも情けない一體國民の多數をして唯だ生きて居ることを考へさせるのは、畢竟今日の社會組織に存する缺陷の罪である。苟くも一個の團體生活を構成して居る社會は、お互に各個人の生きて居らねばならぬ事を考へさせない丈けの實際生活を保障して、社會の爲め國家の爲めに働くことの努力を專らならしむるものでなければならない筈である。處が、それだけの社會的責任を社會が果して居らない國家的の責任を國家が果して居らない、又他に對する人類の責任を相互が果して居らない爲に、私共は先づ自ら生きる事を考へなければならないと云ふところから、所謂適材の發揮を完ふする餘力を持ち得ずに居るのである、斯の如うに考へて來ると適材の發揮と云ふ重い使命を任じて働いて居る勞働者に對して、生きて行く丈けに必要な賃銀を支拂はないと云ふ法はない私はどう考へて見ても或種の事業に對して適材の可能を擧げた勞働者に對して、其の生活を維持するに十分な報酬を提供するのが當然であると信ずる、然るに勞働者の勞働力を安く値切る事が容されて居るのを良い事にして、そうした勞働の對價を生きて行くに必要なだけの物資を購入する貨幣以上に見積つて與れないと云ふ事はあまり非道い。

本來私共人類の働きは、辛ふやくに喰ふて行ける丈けのものであつてはならない。若し總てのものが辛ふやくに喰ふて行くだけの働きしか出來ないとしたら國家社會の向上發展も無ければ、人類の進化も有り得ないであらう。例へば、二人の夫婦がすべて二人の子を生むに過ぎないとしたら、決して人口の殖えて行く道理がない、寧ろ當然に減つて仕舞ふのであるが、幸ひにも二人の夫婦は平均二人以上の子を生むことに因りて人口が殖えて行くのである。又子供が親よりも悧巧でない如うに、總て親が自分を程度と

して子供を教育し、敢へて自分以上の教育を子供に授けないとしたら、文化の進歩も文運發展の創見も有り得ないのてあるが、之れ又、幸ひにも親が親以上の教育を子供に授ける事に因りて、社會の進歩と國家の發展とを見ることが出來るのてある要するに、私共人間の力は唯だ辛ふやくに喰ひ、只だ辛ふやくに生きて行くに止まるべき筈のものてはない、現狀維持に喰ふて行く丈けの現狀維持を超へて向上發展の創造的進歩を一歩一歩の理想に辿る強き力を與へられて居る。而して其の力の中に樂しい私共の人生があるのてある。

故に私共の有つて生れた適材發揮の能力を擧げ盡くす勞働者に對して、喰ふて行ける丈けの賃銀を拂はないと云ふことは出來まい。能力を擧げ盡した勞働に對して、喰ふて行ける丈けの價値を認めた敬意を表しないと云ふ事が出來ない筈である。寧ろ社會としても國家としても或は今日の政治上經濟上今日の社會國家を我物顔にして居る資本家として私共勞働者の生活を保障する事が當然の義務てなければならないと信ずる。

□同盟罷工の起因

勞働者の全力を擧げ盡くして働く勞働に酬ゆる賃銀が如何にも少なくして、勞働者一家の維持は勿論勞働者自身其の日の生活を維持して行く丈けも哭れて居らないからてある。卽ち勞働の對價を相當に認めて居らない點に在るのてある。斯うした原因に結果せらるゝ同盟罷業は、勞働者の勞働力を高いものとしての對價を要求するのてはない。高い安いを考慮する暇も無いまてに切迫した生命を提げて、死の手に追はるゝ喰ふ丈けの逃げ場を賃銀の値上に求むる勞働者の訴へてある。若しそれが生活を維持して行くに不足は無いが、勞働の結果に生産せらるゝ利益を公平に配當して貰ひ度いと云ふ處まて進んだならば、其處に可否の論も起るてあらうし、又合理不合理の研究を盡くして見なければならないてあらう。況んや、産業自治の主張に至りては、今日の經濟組織を前提とした可否の論議と今日の經濟組織其のものゝ合理不合理に就て、種々なる問題が生じて來るに違いない、けれども、現に我國に行はれて居る勞働條件の對價的改善を爭議とする同盟罷業は決して生産價値の公平配當を要求する處まて進んて居らないのてあるから、産業自治の要求まて進んて居らない事は言ふまてもない、只だ夫れ生活確保の最低賃銀を要求するに止まつて居るのてある。生きて行けるか行けないかと云ふ痛切な第一義的の要求てある。要求する事の善いか惡いかと云ふ第二義的若くは要求の必要不必要と云ふ第三義的の問題てない、有りと有らゆる私共人生の問題は、其の總てを通じて、何事も生命あつての物種だと見なければならない、其の生命を維持せらるゝか維持せられないかと云ふ所に發足して居るのてある。私は斯の意味に於て、今日の對價的改善を要求する同盟罷業は、眞に生命懸けの眞劍味を有つて居ると信ずる。

私は勞働條件の心的及能率的改善の爲の同盟罷業よりも一層の眞劍味を有ち、生活確保の爲めの最低要求てある同盟罷業に特段の同感を表するものてある。解り易すく換言すれば、今日の如うな勞働對價の配給に從つて居たのでは、其の生命を維持して行くだけの生活費を得る爲に、長い時間を働かなければならない而かも長い時間を働けば健康を害するからと云ふのて時間の方を減らすと、其の減らした時間丈け働いたのては喰つて行く丈けの收入が得られないと云ふ事になるのてある。之れ卽ち勞働時間の短縮と賃銀の値上げと云ふ事を相互に關聯せしめたる勞働條件改善の要求を容れられない爲に起る同盟罷業ほど眞劍にして悲惨なものはないと云ふ所以てある。現在の如き賃銀ては辛ふじて喰ふて行くだけの收入を得る爲に長い時間を働かなければならないから、其の健康を害して仕舞ふ卽ち生命を削らなければならない事になるから堪へられない。そこて賃銀が當の儘にして時間を短縮する。と云ふのが勞働時間の短縮と賃銀値上とを交互せる對價的勞働條件の改善を要求しても容れられない處から起る同盟罷業てある。低い賃銀によりて最低限の生活費を得る爲には長時間の勞働に服さなければならないし、長時間の勞働に服すれば、漸次其の健康を害して益々能率を減ずることになるから、彌々長時間の勞働に服さなければ最低限の生活費をも得ることが出來なく爲つて仕舞ふ處に最も眞劍味ある生命懸けの同盟罷業が行はれるのてある。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

□最低生活の維持と賃銀

解り易く換言すれば、今日の物價て其の日の生活を維持するには二圓の金が必要だとする、そして一日勞働して得る處の賃銀は、一時間二十錢の割合に於ける十時間二圓だとする、此の場合十時間の勞働が、其の健康を維持すると同時に能率の減退を見ないカツ〳〵の勞働條件だとすれば、十時間働いて得る二圓の收入と、二圓の收入に依つて其の日の生活を維持する事は、眞に辛ふじて其の日の實際生活が確保せられて居るのである、けれども、勞働時間としての十時間は甚だ長きに過ぎるのである、私共勞働者の健康を永く維持する勞働能率を適當に繼續して行くには八時間が適當だとして居る、從つて私共は、二時間餘計に働かせられる丈け生命が削られるのを怖れる爲に、二時間丈けを減じて八時間にして貰はなければならぬと云ふ時間の短縮を要求するのである。そして勞働時間丈けが八時間になつたとしても前賃銀一時間二十錢の割合て、八時間一圓六十錢に低減せられたのては、到底私共今日の生活を維持して行くことが出來ない。即ち四十錢丈けの不足を生ずるのであるが、此の四十錢丈けの不足は軈て私共の生命を夫れ丈け縮めて行く事になるのである。

モー一層解り易く此の關係を說明すると私共一日の生活を維持するカロリーが假りに三千の營養分を必要とする、そして三千カロリーの營養分を攝取する爲に、今日の物價て二圓を必要とすれば時間の短縮のみが容れられて一圓六十錢の收入と云ふことになると、舊勞銀に由る一圓六十錢の收入ては、二圓て三千カロリーの營養分を攝取することの出來る割合から見て、五分の四にしか當らないのてあるから、二千四百カロリーより外攝取することが出來ない、從つて、六百カロリーだけの不足は、私共の生命を維持するに必要なだけのものを滿たさない事になる、私共の人生を五十年として、一日三千カロリーのものが一年にして幾ら五十年にして幾らと云ふ見積りて計算すると、一日六百カロリー丈けの營養不足は、五十年の生命に就て矢張り五分の四の不足を生じて、四十年だけしか生きられないと云ふ結果になる、而かも、是れは單純なる算術的計算に依るのであるが害はれたる健康を以て、無理に勞働する結果は、加速度的に其の健康を害ふ事と爲り、一日六百カロリーを不足した翌日の健康狀態は、其の日の生活と勞働とを維持するの必要なる三千に加ふるに前日の不足六百、即ち三千六百のカロリーを要求して居るのである、然らざれば、前日六百のカロリーを不足した爲に害はれた健康が回復せられない、然るに何處までも慘めなる勞働者の實際生活は、三千六百カロリーを必要とする處へ、二千四百カロリーしか供給されないことに爲る結果、前日の不足と今日の不足との合計一千二百の不足を生じて、其の不足が倍加して來る、而かも一面健康の害はれながらに從ふ勞働能率は減退するのである前には八時間の勞働に依つて一時間二十錢の割合に由る勞働賃銀を得て居たものが、後には一時間働いても到底前の健康狀態に於けるが如く、二十錢の割合の收入は得られない、僅かに十五錢なり十錢なりの收入を得るに過ぎないと云ふ事に爲つて仕舞ふ爲に健康狀態が害はれゝば勞働能率が低減して收入が少なくなるの

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

であるから、其の日の生活と勞働とを維持するに必要なるカロリーが一日二日と不足を告げれば不足を告げるほど其の量が彌增して行くと云ふ事になるのである斯くして、折角時間の短縮を得ても其の日其の日の健康維持に必要なる三千カロリーを供給する丈けの賃銀を與へられないと云ふバランスの破綻は、終に五十年の生命を維持し得る者が十年の生命をも維持し得ないで四十年丈けの生命を削られて仕舞ふのである、そうした實際生活の壓迫に堪えない勞働者は、こゝに、勞働時間を八時間に短縮しても、短縮せられたる八時間丈けの勞働に由りて、以前やうやく生命を維持して居つた、二圓丈けの賃銀を貰はなければならぬと云ふので、時間の短縮と共に、一時間二十錢のものを一時間二十五錢に値上する勞働條件の對價的改善を要求する事に爲るのである。

處が世間多くの短見者流は斯うした關係を能くも調査しないで、勞働者が賃銀の値上を要求すると共に、時間の短縮を要求するのは、あまりに得手勝手過ぎる時間を短縮すれば賃銀が安くなるのが當り前である、少くとも賃銀を增さないで現狀に置くと云ふことが當り前である然るに一方時間の短縮を要求しながら、又一方賃銀の値上を要求すると云ふのは如何にも我儘だと云ふ非難を加へる、そして俗言耳に入り易き斯の種の非難は、一寸成程と感ぜしむるのである。時間が少くなれば賃銀が安くなるのが當り前ではないか、時間を少くして賃銀を高くすると云ふ法はあるまいと云ふのであるが、しかし、それは未だ勞働者の生活權を本當に認めて呉れない人の言ひ分である。所謂勞働者が勞働條件の對價的改善を要求する、尤も眞劍な切實味を覺ることの出來ない者の非難である。一種の遊戲的若くは贅澤なる勞働條件の對價的改善を要求するものゝ如くに見て居るものゝ言葉である。

□時間短縮と賃銀値上げ

私は、前きにも一言した如うに、勞働條件の改善を要求する幾多の要求中、時間の短縮と勞銀の値上とを同時に要求する勞働條件の改善に特別の重きを置いて考へて居る。從つて勞働賃銀の値上だけが、勞働時間の短縮だけを要求するかする、どちらか一方のみの改善要求から起る同盟罷業に夫れ程の同情を有たない。

夫れは、賃銀の値上若くは時間の短縮のみを改善する勞働條件の要求は、未だ以て生命懸けの眞劍味を有する處まで至つて居らないと思ふからである。現在の給料に由りて其の日の生活を維持して行くことは樂だけれども、唯だ長く働かせらるゝのが厭だからとか、或は健康保持の爲に困難だから出來るだけ勞働時間を短縮して貰ひたいと云ふ丈けで、勞働時間を短縮した丈けの賃銀が減つても喰ふには困らないと云ふ事であるならば、大して同情する程のものではない、又實際、同盟罷業と云ふ非常手段に依りて成就しなければならぬ程のものでもないと考へる、例へば、現在二圓で生活の出來る物が一時間二十五錢宛十時間働いて二圓五十錢の收入を得て居るとしたら、二圓で喰へるものが二圓五十錢の收入を得て居れば其處に五十錢の餘裕があるのであるから、此の五十錢の餘裕を捨てさへすれば、十時間勞働を八時間に短縮する事が出來るのである。而かも二圓の收入を得て、其の日其の日の生活を支へて行く事が出來るのだとしたら、非常手段の同盟罷業に依つてまで時間の短縮を相手方に强ひなければならない程に切迫して居らないと謂ふて宜ろしい更に他の一例を言へば、一日二圓の生活費を要するものが一圓八十錢の收入しか得て居らないとしても、勞働する時間が假りに六時間だとしたら、六時間しか働かないから、其の日の生活を維持するに必要な二十錢の不足を告げるのである。故に左樣した勞働者が六時間の勞働時間を其の儘に捨置いて、其の日の生活を維持するに必要な二圓だけの賃銀値上を要求するのであるならば、之れ亦同盟罷業と云ふ絕對絕命の非常手段に訴へる必要は無いと思ふ。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

姉の茶ばなし

小林隆之助

『晝間見たてせう。あの男狂ひ。あの男狂ひの女が、あゝなるまでには、復たなつてからも、それは〳〵隨分悲しい傷しい出來事がたくさんあつたんてす。』久濶りて歸郷した私に、ある晩さう云つて私の姉が次のやうな話をした。

『あの女の生れた家は、阿母さんの里である××村なんてす。阿母さんが十六七の娘時代には奉公人の十人餘りも使つて肥えた馬を二頭までも飼つてそれは手廣く百姓を遣つてゐたんださうてす。ですから一時は他人が羨むほど金も蓄めたし、裕福な暮しもしてゐたのだけれど、伜さんに嫁を貰つた其の翌年、偶とした風邪が因て、永い間わづらい續いた母御さんが死んでからといふものは、終始まの悪いこと許りが續いて重なつて、つい數年前頃には、最うもとの半分位の身代になつて了つたんださうてす。けれどその親爺さんといふのは根が洵に器用な性質て養蠶飼が非常に上手だつたものてすから、何ても前のやうなわけには行かないが、それても貸金なども隨分出來、至極暢氣な暮をする迄に漕付けたさうてす。良い鹽梅には其の伜さんの物堅い事と云つたら、それこそ村中の評判者だつた位だから、いまに身代がどれだけ大きくなるかあの家はその底が知れないなど〻皆が噂しては羨ましがつたものださうてす。

處がねえ人の運なんてものは分らないものじやないか。そんな確乎した家が、ものゝ二年と經つか經たない裡に、田や畑は言はずもがな、家屋敷までも、今ては人手に渡さなければならないといふ憐れな身代になつて了つたんてす。斯う話した許りては、その理由が分らないてせう。

實はさうなつたのも、もとの起りは其の伜さんの妹のお霜さんといふあの娘さんが、或る男に騙されたといふことからなんてす。或る男といふのは、其の村の村長の彼の××さんといふ。お前も多分知つてゐる、あの人が、先妻に死別れてからといふものは、諸方の茶屋の白首に浮れて、中には半年なり一年なりの間、少くない金を出して迄も身受けして自家に置いた事などもあるといふ事を聞いたのてすが、それは眞個か何うかは判らないけど、兎に角それからといふものは身持ちがめつきり惡くなつて終始女の事ばかりて紛爭が絶えなかつたさうてす。その頃なんてせうお霜さんの家は自分の家の直ぐ裏だつたものだから、何時とはなしに心安くなつて、到頭後妻にするか、若し後妻にしなければ、たくさんの田地をやるとか、旨く騙して了つたんてすれ。普通の女なら如何になんても、年も隨分違ふしそれに慾の深い事にかけては名のある村長の事だから、そんな事には頓着しなかつたてせうが。其處が矢張り間が悪いんてすれ。女はそれを眞に受けて後妻になれる事と信じ切つてゐたんてせう。又た後妻にして貰はなければ、たくさんの田地を貰える心算てゐたんてせう。處が、二三年の間さうして騙して置いて、突然何の話もなしに××館にゐた女を身受けをして後妻にして、そして最うお前には用がないと剝れたさうてすから溜りません。年頃てはあるし、それにあの通り顔もよかつたてせうから、定めし諸方から良い縁談も隨分あつたてせう。けれど約束を喜んで待つてゐたんてすから、それを斷つてまでも頼みに思つてゐた本人の身になつたら、それこそ何れ丈け落膽したか判らないわれ。毎日泣通して暮したといふのも道理、見るに見兼れたその親爺さんは、或る日

『何も私の娘のした事だから、どんな約束をしたかそんな事に兎や角言はないが、あゝして毎日泣崩れてゐる本人の氣晴しに、何とか方法をつけて呉れまいか。金が欲しいの、田地を呉れのといふ譯じやないが、兎に角事の起りがあなたにあるのだから。』

といふ話をすると、その村長さんの返答が

『何!! 馬鹿な事をゆへ。人聞きの悪い事を云ふと承知しないぞ。こんな事は男許りの罪じやない女あつてこそ初めて出來るんだ。俺は俺お前の娘は娘、何うても勝手にするが良い。そんな金などは鐚一文だつて出せないから泣くとも吠えるとも好きにしやがれ。』

親御も貧すれば鈍する位の處て諦めて、泣寢入りするより詮方がなかつたんてすれ。伜さんも初めこそはそれては餘りに村長さんにも似合はない仕打だと憤つたものゝ、根が物靜な男だから、之れも諦めるより詮

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

方がないとして了つたさうですけれども諦められないのはその娘で、それからといふものは騙されたく〳〵が嵩じて、到頭氣が狂つて了つたんでせう。

氣が狂つてからといふものは、誰れ彼れの差別なく男さへ見れば頸首に噛付いて離さないといふ哀れな痴態を演ろやうになつたのださうです。驚くだらうつて?。そりやお前大概の人は驚きますわね顔貌こそ凄いがあの通り白いものをこて〳〵塗立てゝ、あの凄い眼付きで默言つてムツと頸首などに噛付かれたら、誰でもうんざりするでせうよ。親爺さんもそれには稍々困り果てゝ始めこそは手首に輪を嵌めて、それに鎖をつないで柱に繋つては、野良へ仕事に出たさうだけど伜さんがそれては餘りに可哀さうだと云つては、親に内密で時折その鎖を外して遣つた事などもあつたさうです。鎖から離れたお霜さんは直ぐその邊で見た男の頸首に抱付く巡査からは嚴重な達しがある。もうまろですべてが地獄のやうな騒ぎ、お前などに言はせたら何處までも村長の非を鳴らして攻立てるでせうけれどそこが矢張り開けない田舍である爲めか何うか何處までも長いものには卷かれろの仕義て、什麽ことがあつてもたゞ困つた〳〵て騒いて居たんですね。親爺さんは娘に附切りて働けないし、伜も落ち〳〵仕事がつかないし伜の嫁さんも二人の子供を抱いてゐるのだから家内中殘らずさうして暮してゐる内に、坐して食へば大山も空しで漸次田地などを賣らなければならないやうな破目になつて了つたものだからそれが原因てさうかうする内に昨年の春、その伜さんも妹いぢらしさに到頭氣が狂つて、ある晩屋敷内の柿の本の枝に首縊りして死んて了ふ嫁さんは身の行先を案じてか子を抱いて郷へ歸へる。忽ちの間に乞食同然の身の上に親子はなり果てたんです。

て、食ふに困つた結果、據ろなくあうしてあの氣の狂つた娘を鎖で引張つて、他人の情を受けて歩いて食つてゐるんてす。今でも家だけはあるさうてすが、買ると云つても誰も買手がないからあるのださうだけれど、それもホンの名許りの家で、いまにも傾きさうに朽果てゝゐるさうてす。他人から貰つては晩になると家へ歸つて休むで、翌る日また背つて歩くのださうてすけれど、あの凄いやうな眼と眞白く塗立てた顔と汚れ切つたあの赤い衣服とを着た娘が、貰え物を入れる爲めの籠を背負つたあの親に鎖で引かれて、そして何處かの村の若い衆に作つて貰つたといふ三味線とも琴ともつかないものを抱いて、それをチヤカ〳〵鳴らしながら、取止めもない唄を歌つて歩く姿を一目見やつた人は、誰しも涙を流さないでは居られないから、一日には隨分貰え物があるといふ話てす。初めの内はいくら何でも、もとが相當に暮してゐた人だけあつて、あうして貰つて歩いて食はふとは思はなかつたのてせうけれど、一日延びに到頭あんな慘な姿になつて了つたんでせう。

その村長は平氣で居るかつて、まさかあの姿を見ては如何に思遣りのない人でも平氣では居られまいが、大して惡い事をしたとも思つてはゐないやうてす。惡い事をしたと思へば、あのやうな有樣をして自分の名前を其處ちう觸れて歩かれては流石に默言つて見ても居られないのが人情てせうが、やはりそこが田舍なんてすね。お前などから覗れば殺人以上の大罪を犯したやうな事を言はれるでせうが、誰あつて彼れてば餘りだから、何とかして遣つた方が良いとも注意する人もないんですね。隨分外聞の惡い話てすわね。あの嫁の帶の前にブラ下げたあの札を見たてせう。あれにはこんな事が書いてあるんてす。

『××村長××××はつみつくりましたよ。』

それはその本人の娘が書いたのださうてす。氣が狂つてゐても、あうして字の書ける處を見ると、滿更眞因の氣狂でもなさ相てすが、それがあうして男を見ると直ぐに眼を据ゑて恨めしさうに瞠めるんですから情けないと云へは情けないが、そんな言葉であの有樣を言表はす事は出來ないでせうと思ひます。眞個に男は罪だわねえ——。

私などには、あの娘とその親との二人の身の行末がどんなに遷りかはつて行く事やら分らないけれど、あうしてあの儘、誰も擱つて呉れずに行くならば、乾度いゝ死目にも會はずに終る事だらうと思ふんてす。『長い者には卷かれろ』といふ諺が此の土地の玉條になつてゐるから、誰一人あの人達の身の上の事に就て、兎や角あの村長さんに話をして、何とか救ひの道を作つて遣るものもないんですね。

けどねえ。私達はあの女を見て、可哀さうだの、氣の毒だのと云つて只だ貰え泣き許りしてゐる際には行きませんと思ひます。あの女があうして、あの哀れな傷しい姿を私達に見せて呉れるので、いまゝて男と女との經緯に就て少しも考へても見なかつた數多の人達の心にどんな深い印象と刺戟とを與へて呉れたかを考へねばなりません。此の意味で私などはあの娘さんがこれからの男と女との上に教へて下つた尊い犠牲者であり教訓者であらうと信じまして、深い同情をそゝがればならないと同時に、此の犠牲になつた尊い娘さんの教訓を何處までも忘れない事に力めなければなぃないと思へます。お前は何う思ふ。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

娼妓病院手記（十四）

前某驅黴院看護婦　田口和子

十一月廿五日(木曜日)

いつか私はこんな話を聞いた事がありました。

『あれて警察なんてものも當てにはならないものされ。規則々々つて何でも規則ぜめにする處から、我々が夏の日中に裸體などに居るものなら、それこそ直ぐに(おいこら!!)と來る處なのに、藝妓などに對する態度の極めて寛大な事と言つたら、あの服裝をして大道を濶歩しやうが、深更お客と自動車の中でベチヤ〱遣つてやうが、そんな事には一向お構ひないと來てゐるからね。同じ規則ぜめにするなら何故、我々には嚴のみを以つて當り、彼等には柔を以つて迎へるといふ區別をつけるかね？』

此の話て思ひ起した事なのてすが、只今病院に通つてゐる多くの患者の中に、まだ法律て定めた規定の年齡に達しないのに、無理にお客を取らせて、それが爲めに身に餘る疾患に惱むでゐる未成年者が可成多いのてす。現在此病院に通つて來る人達ばかりても、一々數へ上げればそれは〱大變なんてす。其の中一家から二人以上の患者を出してゐるものを擧げて見れば先づ南海樓の小菊さんに千代子さん、東洋樓の奴さんに梅次さん、一福亭の三勝さんに福之助さんに君葉さん、八重樓の櫻子さんに鶴子さんに朝子さん等てすが、此の人達は揃ひも揃つて皆最も重い下疳に罹つてゐるのてす。身體の充分に發達しない此の人達に、こんな病氣があるといふ事は、何とも云ひやうのない悲慘事てはありませんか。若し規則を嚴守する事が、國家の安寧を維持し、社會の秩序を保つ爲めのものであるとするならば、何うして此の不祥極りない事實を等閑に附して居るのてせう。と私は、いつも斯う思つては、世の儘ならないことを齒痒く感ずるのてす。私がかうして唯だ文字の上て悲慘な事てすと申上げた許りては、此の方面に携はらない方々には多分さうは酷く感じないかも知れませんけれど、私達のやうに朝夕見たり聞いたりして、加も直接に取扱つてゐる者には、それは〱眞個に腹立しい程、さういふ考へが湧起つて止まないのてす。それ許りてはありません。こんな慘酷な事實上にも、倘ほその度が加はるのてす。

『まだ癒りませんか。あなたからの注意て、お客を取らせると何うしても癒りが面倒だと云ふから、あの后座敷へは出しても、お客は一切取らせぬ事にしてゐるのだが、それては私の方ても損がいつて仕方がないから、いゝ加減の所て切上げて貰ふことにしたいものだ。』

かういふ事を云つて來る人達が隨分多いんてす。尤もそれ位の考へてなくば、迚もあの商賣は出來ないかも知れませんけれど、如何に商賣柄が柄とは云へ、思ひ切つた惡辣な遣方なんてせう。女などはてんで犬か馬同然のやうに思つてゐるのてす。てすから何ぞと謂へば、直ぐに何を生意氣な事を拔かすんだといふ態度なのも無理はないんてすし、又た彼等樓主には動かすべからざる大磐石のやうな後援者？があるんてすから、全く此の社會許りは規則がはりの法律が何うのと云つた處て迚も役などには立たない處なんてす。横に車は押せぬといふ事を、よく世間ては申しますが、此の社會ては立派に横に車を押してゐるんてすから、又た押す事を公然許されてゐるんてすから不思議てはありませんか。

七日(月曜日)

もう今年も此の月だけて終りになるのかと思ふと、過去つた月日が殘惜しい心地がして、爲さればならなかつた種々の仕事を爲さないて暮した自分の所業が何となく濟まない氣がするのてす。それにしても盆も正月も何の節句もなしに、同じやうな日を送つてゐる多くの姉妹達の身の上を考へれば、未だ自分の方がどれ丈け充實した生甲斐のある生活を爲したか知れないと思ふと、それても心の或る底から感謝と喜悅の情感が滲むて來るのてす。神に一切を任せて身を奉仕の二字に置く決心の自分故、いつも不平などはなしに働きたいのが自分の願ひてす。望みてす。誰やらが

『田口さんたら、何て氣持ちの平な人なんてせう』

とお世辭を云つて吳れたその言葉も、實は皆神樣の御旨に添はんが爲めにのみに腐心してゐる日頃の賜なんてせう。などゝ考へつゝ仕事に屈托してゐますと、いくらも隔つてゐない處て話してゐる二人の會話が耳に入ります。何の氣なしに聞いてゐますと

『これてやつて見ると、又た格別良い處もある商賣てな。人などが、よく娼妓稼業は

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

辛いものだの、悲しい商賣だのといふがあれは嘘なんだれ。何うして〳〵辛い處か。初めの內こそ、それは辛いと思ふやうな事もない譯てはないが、それは不馴れの爲めて、馴れさへすれば辛いとか悲しいとか、そんな馬鹿な事があるものかれ。よく商賣に馴れて了へば、この商賣だけはやめようと思つた位て、やめられるものかれ。』

聞き覺えのある聲だと思つて振返つて見ると、それは例の問所さんてあります。今日も一人の娼妓志願者を連れて來て、これから健康診斷を受ける處なのてせう、盛に娼妓稼業の利厄を說いてゐる樣子なんてす。

『此の押詰つた暮に、よく入るものがありますれ』

忙しい手を休めて、物好きにもこんな事を聞いて見ると、問所さんは一寸驚いたやうな表情をして

『いえ。やつぱり餅屋は餅屋て、何處て何う探しあてたものか、此の押詰つた暮の忙しい中に、二三日前に連れて來たんてすがれ。それが何うにも方法がつかないといふのは、此の子が餘り若過ぎて、いや年齡が若いのじやない、心が若過ぎてれ、何とも法がつかない有樣なんてさあ。』

『心が若いといふと、つまり初心といふ譯なんてすに。』

『さうてす。さうてすとも、此の初心な心懸じや、店に出ろ早々男に手玉に取られて了へやしないかとそれ許りが心配てれ、それて斯うしていろ〳〵敎へてゐる所なんてすよ。』

『けれどれえ問所さん。初心だつて何だつて、御自分が抱える人じやないんてすから、そんな事なんか何うても好いてはありませんか、損をするのは樓主許りてすから。』

私は思はず、又た到頭喰つて掛る態度に出て了ひました。いつも問所さんと會ふ度每に、屹度一時間や二時間の議論はしない事はないんてすから、後て彼樣な人達と議論した所て、何うにも仕方がないのにと悔ゐない事はないのて、今度會つたら必ず議論はしない事に極めたのてすが、それが會へば矢つ張り何かと議論がましい言ひ樣に陥つて了ふんてす。此時もさうだつたんてす。心てはいつもの癖が又た出たとは思ひながら

『え、さうなんてせう?。』

と云へば、矢つ張りいつものやうな面持ちて

『さう云へば左樣てすが、これて私なども此の廓の爲めには隨分盡になつてゐるから、さうあなたのやうに人間が何うの斯うのと云つては居られやしませんよ。そんな事ばかり云つてゐた日にや第一この口が干上つて了いまさあ。』

『だけど、働く處は此處ばかりじやありませんから、食へないといふ事はないてせうれ。』

『いえ、そりやさうてすよ。併し此處にゐては迚も他の社會なぞへ行けないからね。汗みどろになつて働いて、それていくらにもならないのだから、全く考へれば有難い譯さ。』

働く爲めの人間てありながら、其の當然爲すべき事をも爲さうとしないて、少しても樂な月日が送れる事を無上の光榮としてゐる此の人達には、それが當然の考へなんてせうと思はれましたから、此の場合强いて何時のやうに反抗もしませんてしたけれども、斯うした人達が寄つて集つて、善良な心の持主てある多くの姉妹達の生血を搾らうとしてゐる有樣を思ふにつけ、私はいつも私の力の弱い事に私みづから悲むのてあります。人面獸心のやうな行爲を平氣てやり遂げてゐる人達の集合してゐる此の廓にゐる私が、如何に全身の力を致しても、到底多勢に無勢の爲めの當然の結果を豫想する時、私は思ふ限り度々泣いたのてあります。

『何を云つても感じない人達の事だから。』

私はたうとうこんな事を云つて問所さんに別れました。問所さんはその後暫く前のやうなことを再び叮嚀に敎へてゐられるやうてしたが、彼の女が

『判りました。みつしりやります。』

と答へますと、問所は相恰を崩して喜んて、

『それてはうちへ歸つて、あの問所さんから是々の事を聞きました。その通り遣る心算てすから。と斯う話すのだよ。判つたかれ。』

それから二人は、その室を出て行きました。その後姿を見送つた私は思はずホロリと致しました。

十五日(火曜日)

一切の公用を形付けて了ひ、それから自分の部屋へ入つて裁針仕事に餘念のない私は、暮れて間もない冷い透るやうな空氣の中から、悲哀に滿ちた唄が聞えるのてした。聞くともなしに耳を傾けると

『…………心の內は無沙苦沙と、更に浮く氣はなけれども、勤めする身の義理なれば、嫌なお客の側てさへ、片目て笑ひ、片目ては、泪を包む袖の下、哀れ儚なき身の因果………』

思はず知らず私は縫仕事の手を休めて聞いたのてした。それから又た暫くの間、何やらがや〳〵と喋たる話が絶切れ〳〵に響いて來ましたが、間もなく此度はからくりの覗節て

『…………ヤレー客を騙した天罰て、泥水稼業に住む身體、何時の事やら世の中に、出られる事やら先知れず、浮ぶ瀨のない此の…………』などゝ唄ふ者があると思へば、

『——ヤレー病院流れて警察燒けて、ヤレー親方虎列刺か肺病か、ヤレー左もなきや痳病か梅毒か、ヤレーそれて足りなきや見せしめに、汽車に轢かれて死ればよい——!』

偽らない、心の中から出て來るこの唄の文句を聞いては、誰も此の廓稼業の罪の深い商賣てあるかゞ判る筈てす。私は娼妓の身の上の眞に氣の毒な事を知らしめんが爲めに、何うにかして一度だけは心ある人達に見て貰つたらと泌々思ひました。

そして私は、姉妹達が廓といふ檻の中から怎麼に悶えて居るかを想ふと、何時も例へ方ない悲哀を感じるのてあります。姉妹達は堅く縛り付けられて居る鎖を二六時中泪の眼て唯だ眺めて居るより外に仕樣がないのてありまして、數え唄などに其の遣る瀨ない心を紛らして居るのてあります。『逃げも隱れもしないのに、板壁作りは胴慾な……』とか、「……遠い所から面會に……逢はせてお呉れよ院長さん……」と。嘸何といふ悲慘な叫てせう。姉妹達は每日明けても暮れても堅固な圍の中に縛ばられて泌いて居るのてす。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

片言隻語

福井壽郎

〔一〕

雜誌廓淸正義の論城に據り天下に呼號すること既に十星霜、廓淸會は年と共に發展し其の主義主張は將に文運進化の中堅たる、思想界の耳目を聳め眞價を一般に認識せらるゝに至つた。此れ實に廓淸會長初め諸賢の十年一日、其の孤城を守りて正論なる主張の貫徹に努力し、勸善懲惡の爲めに寸毫も邪惡を許さざりし結果に外ならぬことを信ずるのである。然り社會の風紀を廓淸し藝娼妓を剿絶し、個人の道德を崇高なる美德の域に到達せしめて以て、社會の惡風潮を根本より掃蕩し家庭の美風を擧ぐるとは實に焦眉緊急事である。

吾人は常に考へる。個人の道德人格を研磨して藝娼妓を要求する現代社會の惡風を一日も早く矯正し不純なからしめんことを。併し乍ら翻て顧みるに聲を大にして斯る賣春業者の撲滅を叫ぶと雖も一方斯る社會の惡制度を要求する、現代の墮落腐敗の極に達せる貞操觀念、現代男性の放逸なる其の品性を高尚善良に導くことが、賣春者階級の撲滅を叫ぶよりも尙一層重大な問題である。スポイルせられたる女性の生存は惡いには違ひない。けれども彼等の媚を買ふ遊蕩兒は尙更に罪が深い、無識無恥な賣春婦の一顰一笑に現を拔す男性は何たる白痴者乎。

藝娼妓の多くは古昔の愚なる無自覺に此の賤業に勝れ、或は親の爲、夫の爲と世間並な誤れる舊道德感念の下に、自ら身を墮したものである。而して其の相手となる遊野郎は妻あり子あり社會に相當の地位を有するものが少なくない、相當教育のある學生などで、刹那の耽溺に行くものも少なくない。兎に角婦女を弄びに行くものは弄れるものより自由の身心を有し修養し得る地位にあり賤業者程に無智ではない筈である。

〔二〕

國家國民の安危を決する所の國務が遊野郎の巣窟たる待合の奥座敷で定められ市民の直接生活に影響を及すべき緊急事項に關する問題が紅燈綠酒賤妓の騷ぎの間に議了せられる。議する者は不善を働き不正を働き飽食暖衣せる輩である。而して苦しめらるゝ者は無辜の國民である。斯くの如くして社會の缺陷は何れの時にか廓淸せらるゝだらうか。

地上に生くる人々、大臣も貴族も乞食も賣春婦も皆之れ陛下の赤子である。自然の寵兒である。一樣に自然の懷に其の生を享樂すべき本質を與へられて生きて居るのだ然るを權威の影にかくれて人權を蹂躪し個人の自由を束縛する徒輩は實に憎むべきである。其處で官位何者ぞ、人爵何者ぞ功勞者何者ぞといふ樣な悲憤の聲もなければならない。それ等は等しく人間として等しく自然の恩寵に霑ふが故に漸々人生を續け得るのではないか。然り自然の恩露は廣く且つ淸い。陽の光る所必ず露はあり暖き懷はある。

〔三〕

近時女權の擴張は論ぜられ治警五條の改正案も來議院を通過した誠に賀すべく慶すべきことである。然も所謂新婦人と稱する人々も其の姉妹に賤業に從事しつゝある婦人のあることを顧りみないのは何故だらうか獨り廓淸會などの奮鬪にのみ委れて自分達は新權利とか？の獲得にのみ汲々たるは如何なる故か、衆生の幸福は恐れ多くも陛下の幸福なるが如く同胞の幸福は自己の幸福であらねばならぬ。政治問題や何かに目をつける以前に先づ以て手近の自分自身の行爲や苦しめる婦人達の有るを考慮して貰ひたい。

吾人は凡ての問題の解決は第一に個人の人格に有ると思ふ。崇高なる人格、其所に全問題解決の鍵はある。腐れたる人格は獸格である。しかも現代には美はしき人面を裝ふて狂人の如き獸格の所有者は隨所に瀰つてゐる。宗教家、教育家、政治家の內にも此の圈內に入る人が少くはない。實業家に至つては愈々甚だしい。

〔四〕

私は最近教育に携はる人々に於て其の行爲の人の師表たるべからざるものある事實を見せしめられた。其れは東京市內某高等女學校の校主の片腕であるべき有名な人が蓄妾してゐることである。身は教育界にありながら而も己れの教へ子を妾とし、恬として恥じず社會に對して囈言を弄してゐるのである。

亦瓦斯問題に絡れて瀆職の下に繋がれんとして居る人に東京市會議員で現に某中學校の校主もある。その人の私黨は女流教育家としては權威ある人であるが茲に於てか教育の權威も疑問ならざるを得ない。

また某牧師の如きは窈窕の處女を奸言を以て其の前途を誤らしめたと云ふ樣なこともある。

私は斯くの如き無恥厚顏の宗教家、教育家は其の數は極めて尠なく、恰も曉星の如く寥々たるものであらうと思ふが、彼等の私行が世間に發表せらるゝ時、其の影響すべき範圍は實に狹からざるものであることを想ふのである。從つて彼等が教導の職に從はつて居る丈けに、實業家や他の人よりも其の罪はより大きい。

苟くも社會教導の任にある宗教家、教育家と雖も皆パンなくして活きる事は能きないのであるが、程度を超した慾求のもとに醜惡なる行爲を恥ないとするならば其は藝娼妓が金の爲めに春を賣ると何等擇ぶ所がない。文相の二枚舌も議會の問題になつたが前例の如きは尙一層重大なる責任問題ではあるまいか。

〔五〕

要するに混沌たる現代日本の文化は悲しむに堪へない、文明を誇るに一つとして泰西の文化に摑んで丶頭角を現はして居るものはない。學術然り。文藝然り。道德然り。科學然り。五大國の一に位する日本人の肩身の狹きことよ。と言ふべきだ。吾人は今一歩進んで日本を世界の文化の中心にしなければならぬ。

而して世界も尙一層の進歩を爲さればならぬ。眼を開いて世界を見る時、人類の有史以來六千年、眞に師表たるべき人は一人もない。

年々歲々文化の進歩を誇る世界も、矢張り死したる孔子や釋迦やクリストや日蓮が昔ながらの神樣や佛樣である等は情ないことではないか。良い加減に駄眠を捨てゝ眞生命をつかむで立つ人の二人や三人現はれたつて良い筈だ。此の混沌たる社會に向つて廓淸會がそれを淨むべく奮鬪して居ることは嬉しい。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

編輯の後

■最近新聞紙の報道に依れば、今度スマトラ產の四歲になる牝虎が遙々日本へ送られて來たといふことである。そしてそれは最初上野の動物園で買ふ筈になつて居たのが希望者の非常に多かつた爲め引張り凧となつて、値段が段々釣り上げられて遂う〳〵三千圓て淺草公園の花屋敷に買ひ取られ、その後每日五合の牛乳と七百目の牛肉とを與へられて、嚴重な鐵檻の中に飼はれて居るといふことである。

■此處て私は同じ淺草區內に同じやうな檻に容れられて居る多くの可憐な女性のことを想はずには居られない。彼女等は吉原といふ眞ッ四角な檻に投げ込まれた時は牝虎の價格の三分の一にもつかない程度の僅かな金て堅牢な檻に押し込められたのである。

而かも彼女等の日常の生活は何うてあらうか？之れを一匹の虎の飼料と比較することは餘まりに慘酷て人間が一動物の取り扱ひよりも更らに下列に置かれて居るといふことは到底忍び難い事實である。

■牝虎も矢張り女性てはあるが、獰猛な獸の所有者てある。けれども四周渴仰の標的となつた。そして同じ檻の中ても餌は生活に必要な丈けの量は與へられ、その健康は常に看護人に依つて精細なる注意が拂はれて居る。然るに人間として生み出されて居る彼の女等は何うてあらう。百鬼耽睨の的となり晝夜の分ちなく桎梏に泣いておる。逃げ出すには檻が堅牢に過ぎ、それを破らんとするには彼女等の腕は餘りに纖細に過ぎて到底力の及ぶところてない。しかも日常生命を維持するための糧は唯だ名目丈けを與へられて居るに過ぎないのである。

■我々が食物を攝ることは一日定食三回てあるといふことは、三歲の童兒も克く承知して居るやうに、而かもそれが生理的に如何なる根據があるかは別問題として、普通誰人にも自然てあると思はれるほどに習慣付けられて來て居る。中には木挽の如き特殊の職業に從はるものは四回五回と食を攝る人々さへもある。然るに彼の女等は一日三回の人間並の食が二回に制限されて居るのみか、その二回の食も單に名目のみてあると言ふて過言てない程に慘めな取扱ひを享けて居るのてある。そしてそれが粗食物が粗末て食ふに耐えないものてあるばかりてなく場合に依つてはその二度の食事が一回に減じられる事もあるといふ。前きの花屋敷の牝虎とは比較にもならない待遇を享て居るのてある。

■而して牝虎が看護人に撫育せらるる代りに、彼の女等は其の疲憊して全く生氣なく、腐める瘦身を吸血鬼の飜弄に委せればならぬとは、聞くだに竦然膚に粟を生ずるのてある。

彼の女等とても確か人間として產み出された筈てある。彼の女等にも確かに父母があつた筈てある。別に彼の女等とても草根木皮の類の變化して產み出された譯てはなかつた筈てある。して見れば彼の女等とても等しく人間の取扱ひを享なければならぬ。それが尤も合理的なものてあり、自然の結論てあるべき筈だ。

■然るに彼の女等が飽くまても泣かしめられなければならないといふ事は、甚だ不都合極まることてある。今や何れの方面を見ても改造の聲は澎湃として旺んてある。が私は熾に此の聲の擧げられることは誠に欣ばしい現象てあると思ふけれど、人間が動物以下に取り扱はれて居る斯くの如き矛盾した制度に對して社會の有識者の中に全く無關心て居る人の甚だ尠くないのを觀て咏嘆せずには居られない。

■私共は待合の主人や妓樓の亭主て議員に選ばれて居る人に何等の期待も持たない。然し改造の實を擧ぐるには金錢の力に依つて出た議員の驅逐も必要てあるが同時に賤業の經營者は更らに逐ふべきてある。亦從來の固陋なる因習を打破して、女の置位の向上を計ることも結構てあるが、自由を失ひ食を奪はれ虐げられて居ることが、苦刑以上に相等する樣な扱ひを享けて居る人間が我々の同胞の間に現存して居るにも係はらず之れに對して世人の多くが無關心て居るといふ事は、其迹に聊かの矛盾もないだらうか。

■私は憾ふのてある。近來婦人が權利の上に眼覺めて來たことは甚だ良いことてある。と同時に眼醒めたる婦人達が斯の桎梏に泣いて居る同性の爲め一層の努力を拂つて貰ひ度いと。それは單に虐げられたる婦人達の救濟といふのみてはなく、延いてはその人々の上にもそうすることが順序てあり、即ち女性の地位高上權利伸張の道程てあるが故に、婦人一般に斯くの如き可憐なる同性の存在して居ることを、も少し明瞭に意識して貰ひ度いのてある。

■若し婦人一般に可憐なる同性の存在を明瞭に意識せらるゝならば、廢娼は案外迅かに行はれることゝ思ふ。夫れは何も婦人一般に對して外面的に廢娼運動に參加して貰ふことを強要するのてはない。積極的運動にのみ効果の全部があるのてはなくて凡て事物は兩面を觀なければならぬが、私が婦人達に向つて要求し度いことは、各自の家庭近隣を今少し婦人の力に依つ　廓肅にして貰ひ度いのてある。それに依つて必ず婦人の力は偉大な功果を擧げることゝ思ふ。假りに一人の婦人が一人の遊蕩兒を反省せしめれば、總て問題は解決せられるのてあつて、伏魔殿のやうな議會や傀儡師のやな政治家達には最早や多くの期待は能きないのてあつて、此問題の解決は怎うしても婦人の全面的眞摯なる活動に待つことが、より緊急てあり、それが尤も捷經てあつて、實に婦人の活動に此の問題解決の鍵があるものと私は信ずるのてある。

■此の稿を了るに中つて私は快報を得た、東京市外南北千住の遊廓が既に移轉期を經過して移轉を爲さず、延期の運動も無効に了つて全然不許可となり、二月一日以後全部營業を停められたといふことてある。即ち私は茲に聊か賢明なる警視總監岡喜七郎閣下に敬意の微衷を表しておく（圭英生記）

大正十年二月十日印刷　（每月一回十日發行）
大正十年二月十日發行　（一部定價金二十錢）

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　小石川區大塚窪町一番地　久保民生
印刷所　本鄉區眞砂町三十六番地　日東印刷株式會社
發行所　神田區表猿樂町十番地　廓淸會發行所
電話神田四〇二〇番
振替東京二七〇七二番

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

◉御注文の際は必ず雑誌「廓清」によるよる旨を申添を乞ふ◉

酒きらいになる薬

禁酒丸

一週分　一圓五十錢
二週分　二圓八十錢
三週分　四　圓

とんな酒煙草のみでも害なく心からきらいになる。
郵券二錢送れば説明書及大澤博士其他名士の

禁酒禁煙論 進呈

禁煙液

煙草きらいになる薬

金壹圓　金貳圓　金參圓

本舖　大阪靱南通二丁目　森田商店

電話土佐堀二六〇二番
振替大阪二二壹二六番

産婦人科・小兒科

冨山改め

女醫　吉岡彌生

△院長診療　宅診午前　往診午後
△醫員診察　午後

産室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京市麹町區飯田町四丁目三十一番地

東京至誠病院

電話番町二三五七番

新刊

侯爵 大隈重信序
博士 プリンス・マロー著
文學士 小松武治譯

健康と性慾

三六版百七十頁
特價五拾錢稅八錢

廓清會本部發行